

第1柔整学科 午後コース・第2柔整学科 夜間コース 授業科目一覧表

教育内容	授業科目	授業形態	時間数	必修単位	実務経験ある教員による授業科目	
基礎分野	科学的思考の基盤	自然科学	講義	30	2	
	人間と生活	健康の科学	講義	30	2	
		情報処理	講義	30	2	
		外国語	講義	30	2	
		倫理学	講義	30	2	
		心理学	講義	30	2	
	社会学	講義	30	2		
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖学Ⅰ	講義	30	1	
		解剖学Ⅱ	講義	30	1	
		解剖学Ⅲ	演習	30	1	
		解剖学Ⅳ	講義	30	1	
		解剖学Ⅴ	講義	30	1	
		解剖学Ⅵ	講義	30	1	
		解剖学Ⅶ	講義	30	1	
		解剖学Ⅷ	講義	30	1	
		解剖学Ⅸ	講義	30	1	
		解剖学Ⅹ	講義	30	1	
		生理学Ⅰ	講義	30	1	
		生理学Ⅱ	講義	30	1	
		生理学Ⅲ	講義	30	1	
		運動生理学	講義	15	1	
		運動学	講義	30	1	
	疾病と傷害	病理学概論Ⅰ	講義	30	1	
		病理学概論Ⅱ	講義	30	1	
		衛生学・公衆衛生学Ⅰ	講義	30	1	
		衛生学・公衆衛生学Ⅱ	講義	30	1	
		一般臨床医学Ⅰ	講義	30	1	
		一般臨床医学Ⅱ	講義	30	1	
		運動傷害学概論Ⅰ	講義	30	1	
		運動傷害学概論Ⅱ	講義	30	1	
		外科学概論Ⅰ	講義	30	1	
		外科学概論Ⅱ	講義	30	1	
		リハビリテーション概論Ⅰ	講義	30	1	
		リハビリテーション概論Ⅱ	演習	30	1	
	柔道整復術の適応	柔道整復術の適応	講義	30	2	
	保健医療福祉と柔道整復の理念	柔道Ⅰ	実習	30	1	
		柔道Ⅱ	実習	30	1	
柔道Ⅲ		実習	30	1		
柔道Ⅳ		実習	30	1		
柔道Ⅴ		実習	30	1		
柔道Ⅵ		実習	30	1		
関係法規		講義	30	2		
医療概論	演習	15	1			
社会保障制度	社会保障制度	演習	15	1		
基礎柔道整復学	骨折総論	講義	30	1	●	
	脱臼・軟損総論	講義	30	1	●	
	柔道整復学 上肢Ⅰ-1	講義	30	1	●	
	柔道整復学 上肢Ⅰ-2	講義	30	1	●	
	柔道整復学 下肢・体幹Ⅰ-1	講義	30	1	●	
	柔道整復学 下肢・体幹Ⅰ-2	講義	30	1	●	
	柔道整復人体構造学	講義	30	1	●	
	柔道整復人体機能学	講義	30	1	●	
	柔道整復診察法	講義	30	1	●	
	運動器外傷機能訓練法	講義	30	1	●	
	臨床柔道整復学	柔道整復学 上肢Ⅱ-1	講義	30	1	●
		柔道整復学 上肢Ⅱ-2	講義	30	1	●
		柔道整復学 上肢Ⅲ-1	講義	30	1	●
		柔道整復学 上肢Ⅲ-2	講義	30	1	●
		柔道整復学 下肢・体幹Ⅱ-1	講義	30	1	●
		柔道整復学 下肢・体幹Ⅱ-2	講義	30	1	●
		柔道整復学 下肢・体幹Ⅲ-1	講義	30	1	●
		柔道整復学 下肢・体幹Ⅲ-2	講義	30	1	●
		柔道整復学 (診察と評価)	講義	30	1	●
		総合柔道整復学Ⅰ	講義	30	1	
総合柔道整復学Ⅱ		講義	30	1		
総合柔道整復学Ⅲ		講義	30	1		
総合柔道整復学Ⅳ		講義	30	1		
総合柔道整復学Ⅴ		講義	30	1		
総合柔道整復学Ⅵ	講義	30	1			
総合柔道整復学Ⅶ	講義	30	1			
総合柔道整復学Ⅷ	講義	30	1			
柔道整復実技	基礎包帯実技	実習	30	1	●	
	基礎固定実技	実習	30	1	●	
	柔道整復実技 上肢Ⅰ	実習	30	1	●	
	柔道整復実技 上肢Ⅱ	実習	30	1	●	
	柔道整復実技 上肢Ⅲ	実習	30	1	●	
	柔道整復実技 下肢・体幹Ⅰ	実習	30	1	●	
	柔道整復実技 下肢・体幹Ⅱ	実習	30	1	●	
	柔道整復実技 下肢・体幹Ⅲ	実習	30	1	●	
	基礎柔道整復実技Ⅰ	実習	30	1	●	
	基礎柔道整復実技Ⅱ	実習	30	1	●	
	機能回復訓練実技	実習	30	1	●	
	臨床柔道整復実技 (外傷予防)	実習	30	1	●	
	臨床柔道整復実技 (開業実践)	実習	30	1	●	
	臨床柔道整復実技 (機能訓練)	実習	30	1	●	
	救急処置実習	実習	30	1	●	
	総合柔道整復実技Ⅰ	実習	30	1		
	総合柔道整復実技Ⅱ	実習	30	1		
	臨床実習	臨床実習Ⅰ	実習	45	1	●
		臨床実習Ⅱ	実習	45	1	●
		臨床実習Ⅲ	実習	45	1	●
臨床実習Ⅳ		実習	45	1	●	
合計			2775	101	1200単位時間	

【授業シラバス】

科目名	心理学	単位数	2 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	岩原 昭彦	E-mail				実施時期	3 年 前期

授業の目的

脳の働きと行動の仕組みの基礎を学ぶことで、生物としての人間について知り、人間が人間たるゆえんについて考える。また、人間は社会性をもった存在であるがゆえに、その心のあり様には他者や環境からの影響を大きく受けている。人間の行動の特徴を心理社会的側面から理解し、心理的支援や対人関係の構築に関わる基礎的なスキルを獲得する。

到達目標

心の健康を増進するための方法について理解することを目指す。具体的には、①心の仕組みについて理解すること、②自己と他者について理解すること、③心の健康に関わる理論について説明できること、④ライフステージやフィールドに対応した心の健康を高めるための方法について説明できることを到達目標とする。

授業の内容

本講義では心の健康について、生物-心理-社会モデルから考える。前半は人間の心の仕組みと脳の健康について考えてみたい。後半では生理学的機能についても触れながら、心の健康について、心理社会的要因をベースに考えてみたい。人間の心の働きや心の健康問題を通して幸福とは何かについても考察する。

注意事項

授業時間数の2 / 3以上の出席がないと受験資格を認めません。

成績評価

ミニレポート課題と期末試験から総合的に評価します。

テキスト

テキストは使用しません。資料を配付します。

参考文献・図書

適宜に紹介します。

オフィスアワーについて

曜日： 木曜日

時間： 授業終了後


授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	感覚と知覚 1－知覚のメカニズム	人間が人間たるゆえんは何であるのかについて進化論的かつ適応的な視点から考える
	到達目標	知覚情報処理過程の基礎について学ぶ	
2	授業内容	感覚と知覚 2－幻覚と錯覚	人間の認知機能が歪みやすいことと環境に適応することの関係性について考える
	到達目標	認知機能の主観性と歪みについて理解する	
3	授業内容	学習と記憶 1－学習・記憶のメカニズム	記憶力を高めるためにはどうすればよいのかについて考え、自分にあった学習法について知る
	到達目標	記憶のしくみについて学ぶ	
4	授業内容	学習と記憶 2－記憶障害・特異な記憶力	記憶を失うことが私達に与える影響について考え、自分という存在の実態を感じる
	到達目標	認知機能の障害について理解する	
5	授業内容	言語と思考 1－問題解決	人間はなぜ誤りを犯しやすいのかについて進化論的かつ適応的な視点から考える
	到達目標	思考のしくみと歪みについて学ぶ	
6	授業内容	言語と思考 2－推論	直感的に思考することの効用や否定的な思考を修正する方法について考える
	到達目標	思考の柔軟性や肯定的な思考のあり方を理解する	
7	授業内容	感情と社会性 1－社会的認知と感情	豊かな対人関係を構築するためにはどうすればいいのかについて考える
	到達目標	感情の生起メカニズムと対人関係について学ぶ	
8	授業内容	感情と社会性 2－社会性の障害	誤解がなぜ生じるのかについて考えるとともに他者に共感することの意味について考える
	到達目標	コミュニケーション障害と発達障害について理解する	
9	授業内容	生存と適応－生きるとは	人間が幸せな人生を送るためには何が必要なのかについて考える
	到達目標	人間が幸福に生きることの意味について理解する	
10	授業内容	ストレス 1－ストレスの生起メカニズム	なぜ同じ状況がある人にはストレスで別の人にはストレスではないのかについて考える
	到達目標	ストレスが生じる仕組みについて学ぶ	
11	授業内容	ストレス 2－ストレス対処	ストレスを対処するための方法を理解したうえで、自分に適したストレス対処法を考える
	到達目標	ストレス社会を生き抜くためのスキルについて理解する	
12	授業内容	ライフスタイルと健康－食生活と運動習慣	食習慣を変更したり、運動習慣を確立したりすることがなぜ難しいのかについて考える
	到達目標	生活習慣が形成される心理学的メカニズムについて学ぶ	
13	授業内容	健康増進行動 1－健康行動の変容	分かってはいるのに不健康な習慣を変えられないのはなぜかについて考える
	到達目標	健康的な行動に変容することの難しさについて学ぶ	
14	授業内容	健康増進行動 2－健康心理学的支援	健康的な生活習慣を確立するためにはどのような支援をする必要があるかについて考える
	到達目標	健康的な行動に変容することを支援する方法について学ぶ	
15	授業内容	ポジティブ・ヘルスーポジティブ心理学と健康	ポジティブ志向がなぜ健康を増進するのかを理解し、自分に適した実践方法を考える
	到達目標	ポジティブ心理学的な介入法について理解する	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	社会学	単位数	2単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有・ 
		時間数	30時間				
実務経験内容							
担当者	坂部 昌明	E-mail			実施時期	3年 前期	

授業の目的

この講義では、日本社会に生きる一個人として知っておくべき事柄について整理していただきます。そのうえで、はり師、きゅう師としてどのような考え方、態度でもってこの社会で生きていくかについて検討していただきます。

到達目標

- 社会人として知っておくべき社会事象について概説することができる。
- 自らが志向する生き方に対して、自らの意見を持つことができる。

授業の内容

- この講義では、次の項目について取り扱います。
- ヒトについて・自由主義および功利主義
 - 国家の成立・資本主義・社会主義
 - 現代社会における「通貨」の意義・お金の考え方
 - 現在の社会保障制度についての考え方・制度の内容

注意事項

- ※ 期末試験の受験資格は、この授業の2/3以上の出席があったとみなされた時点で発生します。
- ※ 講義は、たった一人の受講者の為に開かれるものではありません。他に、講義を受ける方がいることを認識し、ふさわしい態度で講義に臨んで下さい。

成績評価

- 出席日数が足りない者については、成績評価の対象となりません。
- 期末試験の点数を成績評価の対象とします。

テキスト

特に指定しない。配布プリント

参考文献・図書

適宜紹介する

オフィスアワーについて

講義終了後、学内にいる間は質問等にお応えします。

授業時間外の学習について

特に予習を求めませんが、復習はしっかりと行ってください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	ホモ・サピエンスからヒトへ	講義内容を復習する。
	到達目標	現代に生きる「ヒト」とは何か概説できる。	
2	授業内容	自由主義と功利主義Ⅰ	講義内容を復習する。
	到達目標	自由主義とは何か概説できる。	
3	授業内容	自由主義と功利主義Ⅱ	講義内容を復習する。
	到達目標	功利主義とは何か概説できる。	
4	授業内容	自由主義と功利主義Ⅲ	講義内容を復習する。
	到達目標	現代社会における自由の捉え方について持論がある。	
5	授業内容	国家と「フィクション（虚構）」	講義内容を復習する。
	到達目標	国家について概説できる。	
6	授業内容	資本主義	講義内容を復習する。
	到達目標	資本主義について概説できる。	
7	授業内容	社会主義	講義内容を復習する。
	到達目標	資本主義について概説できる。	
8	授業内容	「通貨」とは何か	講義内容を復習する。
	到達目標	「通貨」と社会の関係を概説できる。	
9	授業内容	「お金」の考え方Ⅰ	講義内容を復習する。
	到達目標	マネーリテラシーの基礎を理解する。	
10	授業内容	「お金」の考え方Ⅱ	講義内容を復習する。
	到達目標	「財産権」について理解する。	
11	授業内容	我が国の社会保障体制	講義内容を復習する。
	到達目標	医療・介護・福祉に関する仕組みを理解する。	
12	授業内容	医療と思想	講義内容を復習する。
	到達目標	医療に関する思想について理解する。	
13	授業内容	医療倫理と職業倫理	講義内容を復習する。
	到達目標	医療倫理と職業倫理を区別できる。	
14	授業内容	対人関係考	講義内容を復習する。
	到達目標	様々な対人場面を想定できる。	
15	授業内容	期末試験と振り返り	試験結果を見直す。
	到達目標		

【柔整学科授業シラバス】

科目名	病理学概論Ⅱ	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	河井 正隆	E-mail		実施時期	3 年 前期		

授業の目的							
<p>基礎的な科目と臨床的な科目をリンクさせ、人体の疾病についての原因と病態を考察するために、基礎的・基本的な病理学的知識を習得することを目的とします。</p>							
到達目標							
<p>疾病の病態生理を理解することができる。</p> <p>疾病の病因を理解することができる。</p>							
授業の内容							
<p>基本的な疾病の病態生理について学習します。</p> <p>疾病を起こす一般的な病因について学習します。</p>							
注意事項							
<p>教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。</p> <p>授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。</p> <p>途中退席は欠席扱いになることがあります。</p> <p>カードの提出を求めることがあります。</p>							
成績評価							
<p>授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。</p> <p>学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。</p> <p>合計点が 60 点以上で合格となります。</p>							
テキスト							
<p></p>							
参考文献・図書							
<p>病理学概論 改訂第 3 版 全国柔道整復学校協会監修 関根一郎著 医歯薬出版株式会社</p>							
オフィスアワーについて							
<p>曜日：</p> <p>時間： 時 分～ 時 分</p>							
授業時間外の学習について							
<p>授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。</p>							

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、免疫異常・アレルギー1 免疫不全、自己免疫疾患について学ぶ	免疫不全、自己免疫疾患を復習する
	到達目標	免疫不全、自己免疫疾患を理解できる	
2	授業内容	免疫異常・アレルギー2 アレルギーについて学ぶ	免疫細胞を予習しておく アレルギーを復習する
	到達目標	アレルギーを理解できる	
3	授業内容	免疫異常・アレルギー3 アレルギーについて学ぶ	免疫細胞を予習しておく アレルギーを復習する
	到達目標	アレルギーを理解できる	
4	授業内容	免疫異常・アレルギー4 移植について学ぶ	免疫のしくみを予習しておく 移植を復習する
	到達目標	移植を理解できる	
5	授業内容	腫瘍1 腫瘍の概念、良性・悪性腫瘍について学ぶ	組織について予習しておく 腫瘍の概念、良性・悪性腫瘍を復習する
	到達目標	腫瘍の概念、良性・悪性腫瘍を理解できる	
6	授業内容	腫瘍2 腫瘍の種類、浸潤について学ぶ	組織について予習しておく 腫瘍の種類、浸潤を復習する
	到達目標	腫瘍の種類、浸潤を理解できる	
7	授業内容	腫瘍3 腫瘍の転移、発生原因について学ぶ	動静脈系、リンパ管系を予習しておく 腫瘍の転移、発生原因を復習する
	到達目標	腫瘍の転移、発生原因を理解できる	
8	授業内容	腫瘍4 腫瘍の分類について学ぶ	内臓器を予習しておく 腫瘍の分類を復習する
	到達目標	腫瘍の分類を理解できる	
9	授業内容	先天性異常1 代謝異常と奇形について学ぶ	遺伝について予習しておく 代謝異常と奇形を復習する
	到達目標	代謝異常と奇形を理解できる	
10	授業内容	先天性異常2 奇形について学ぶ	奇形の原因を予習しておく 奇形を復習する
	到達目標	奇形を理解できる	
11	授業内容	病因1 素因について学ぶ	遺伝・免疫を予習しておく 素因を復習する
	到達目標	素因を理解できる	
12	授業内容	病因2 内分泌障害、物理的外因について学ぶ	ホルモン、物理的因子を予習しておく 内分泌障害、物理的外因を復習する
	到達目標	内分泌障害、物理的外因を理解できる	
13	授業内容	病因3 化学的外因、生物学的外因について学ぶ	化学的・生物学的因子を予習しておく 化学的外因、生物学的外因を復習する
	到達目標	化学的外因、生物学的外因を理解できる	
14	授業内容	まとめ1 病理学概論を全体的に復習する	病理学概論を全体的に復習する
	到達目標	病理学概論を全体的に理解している	
15	授業内容	まとめ(評価含む) 本講義の内容について確認・復習する	
	到達目標	本講義の内容について修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	一般臨床医学Ⅱ	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	宮坂 卓治	E-mail		実施時期	3年 前期		

授業の目的							
臨床に欠かせない正確な病態把握、施術の適否の判断、適切な施術法を決定するための基礎的な知識を身につけることを目的とします。							
到達目標							
診察法の内容を理解することができる。 各内科的疾患の理解することができる。							
授業の内容							
柔道整復師として必要な主な内科的疾患を学びます。 診察内容と各内科的疾患を結び付けていきます。 教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。							
注意事項							
教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退席は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。							
成績評価							
授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。 学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。 合計点が 60 点以上で合格となります。							
テキスト							
一般臨床医学 改訂第 3 版 全国柔道整復学校協会監修 奈良信雄他著編 医歯薬出版株式会社							
参考文献・図書							
オフィスアワーについて							
曜日： 時間： 時 分～ 時 分							
授業時間外の学習について							
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。							

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、循環器疾患1 虚血性心疾患、弁膜症、先天性心疾患などについて学ぶ	虚血性心疾患、弁膜症、先天性心疾患などを復習する
	到達目標	虚血性心疾患、弁膜症、先天性心疾患などを理解できる	
2	授業内容	循環器疾患2 心不全、高血圧、動脈瘤、パージャヤー病などについて学ぶ	脈管系の解剖を予習しておく 心不全、高血圧、動脈瘤、パージャヤー病などを復習する
	到達目標	心不全、高血圧、動脈瘤、パージャヤー病などを理解できる	
3	授業内容	消化器疾患1 食道疾患、胃疾患などについて学ぶ	食道、胃・十二指腸の解剖・機能を復習しておく 食道疾患、胃疾患などを復習する
	到達目標	食道疾患、胃疾患などを理解できる	
4	授業内容	消化器疾患2 虫垂炎、腸疾患などについて学ぶ	小腸・大腸の解剖を予習しておく 虫垂炎、腸疾患などを復習する
	到達目標	虫垂炎、腸疾患などを理解できる	
5	授業内容	消化器疾患3 肝・胆・膵疾患などについて学ぶ	肝・胆・膵の解剖・機能を予習しておく 肝・胆・膵疾患などを復習する
	到達目標	肝・胆・膵疾患などを理解できる	
6	授業内容	代謝疾患1 糖尿病・脂質異常症などについて学ぶ	膵臓の機能を予習しておく 糖尿病・脂質異常症などを復習する
	到達目標	糖尿病・脂質異常症などを理解できる	
7	授業内容	代謝疾患2 メタボリックシンドローム、痛風などについて学ぶ	代謝機能を予習しておく メタボリックシンドローム、痛風などを復習する
	到達目標	メタボリックシンドローム、痛風などを理解できる	
8	授業内容	内分泌疾患1 概要、下垂体疾患、甲状腺疾患などについて学ぶ	内分泌系を予習しておく 概要、下垂体疾患、甲状腺疾患などを復習する
	到達目標	概要、下垂体疾患、甲状腺疾患などを理解できる	
9	授業内容	内分泌疾患2 副腎疾患、褐色細胞腫、性腺疾患などについて学ぶ	内分泌系を予習しておく 副腎疾患、褐色細胞腫、性腺疾患などを復習する
	到達目標	副腎疾患、褐色細胞腫、性腺疾患などを理解できる	
10	授業内容	血液・造血器疾患 赤血球・白血球・リンパ系疾患などについて学ぶ	血液の生理を予習しておく 赤血球・白血球・リンパ系疾患などを復習する
	到達目標	赤血球・白血球・リンパ系疾患などを理解できる	
11	授業内容	腎・尿路疾患 腎・糸球体疾患、尿路疾患などについて学ぶ	泌尿器系を予習しておく 腎・糸球体疾患、尿路疾患などを復習する
	到達目標	腎・糸球体疾患、尿路疾患などを理解できる	
12	授業内容	神経疾患 脳血管障害・腫瘍、パーキンソン病などについて学ぶ	中枢神経を予習しておく 脳血管障害・腫瘍、パーキンソン病などを復習する
	到達目標	脳血管障害・腫瘍、パーキンソン病などを理解できる	
13	授業内容	感染症 感染症の概要、各疾患について学ぶ	病原微生物を予習しておく 感染症の概要、各疾患などを復習する
	到達目標	感染症の概要、各疾患を理解できる	
14	授業内容	リウマチ、膠原病、アレルギー 膠原病・アレルギーの概要、各疾患などについて学ぶ	免疫を予習しておく 膠原病・アレルギーの概要、各疾患などを復習する
	到達目標	膠原病・アレルギーの概要、各疾患などを理解できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を習得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	運動傷害学概論Ⅱ	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	秋津 知宏	E-mail		実施時期	3 年 前期		

授業の目的

柔道整復師が施術を行う上では、業務外の病態との鑑別も必要となります。この科目ではとくに整形外科領域の疾患の病態及びその診察法・治療法を把握することを目的とします。

到達目標

- 整形外科的疾患の病態を把握することができる。
- 整形外科的疾患の診察法・治療法を理解することができる。

授業の内容

- 整形外科的疾患の概要及び主要疾患の病態を学びます。
- 整形外科的疾患の診察法・治療法を学びます。
- 教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。

注意事項

- 教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。
- 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
- 途中退席は欠席扱いになることがあります。
- 課題の提出を求めることがあります。

成績評価

- 授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。
- 学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。
- 合計点が 60 点以上で合格となります。

テキスト

整形外科学 改訂第 3 版 全国柔道整復学校協会監修 松下隆・福林徹・田淵健一編 南江堂

参考文献・図書

標準整形外科学 医学書院

オフィスアワーについて

曜日：
時間： 時 分～ 時 分


授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、四肢の循環障害 末梢動脈疾患、レイノー症候群、深部静脈血栓症、静脈瘤について学ぶ	四肢の循環障害を復習する
	到達目標	末梢動脈疾患、レイノー症候群、深部静脈血栓症、静脈瘤を理解できる	
2	授業内容	神経・筋疾患 1 神経麻痺、絞扼性神経障害について学ぶ	末梢神経の走行を予習しておく 神経麻痺、絞扼性神経障害を復習する
	到達目標	神経麻痺、絞扼性神経障害を理解できる	
3	授業内容	神経・筋疾患 2 腕神経叢損傷・分娩麻痺について学ぶ	腕神経叢の構成を予習しておく 腕神経叢損傷・分娩麻痺を復習する
	到達目標	腕神経叢損傷・分娩麻痺を理解できる	
4	授業内容	神経・筋疾患 3 全身性神経・筋疾患、脊髄腫瘍・損傷について学ぶ	脊髄の構造を予習しておく 全身性神経・筋疾患、脊髄腫瘍・損傷を復習する
	到達目標	全身性神経・筋疾患、脊髄腫瘍・損傷を理解できる	
5	授業内容	部位別各論 体幹 1 頸部・胸部の損傷・疾患について学ぶ	頸部・胸部の解剖を予習しておく 頸部・胸部の損傷・疾患を復習する
	到達目標	頸部・胸部の損傷・疾患を理解できる	
6	授業内容	部位別各論 体幹 2 腰部の損傷・疾患について学ぶ	腰部の解剖を予習しておく 腰部の損傷・疾患を復習する
	到達目標	腰部の損傷・疾患を理解できる	
7	授業内容	部位別各論 上肢 1 肩関節・肩甲帯の損傷・疾患について学ぶ	上肢の構造を予習しておく 肩関節・肩甲帯の損傷・疾患を復習する
	到達目標	肩関節・肩甲帯の損傷・疾患を理解できる	
8	授業内容	部位別各論 上肢 2 上腕・肘関節の損傷・疾患について学ぶ	上肢の構造を予習しておく 上腕・肘関節の損傷・疾患を復習する
	到達目標	上腕・肘関節の損傷・疾患を理解できる	
9	授業内容	部位別各論 上肢 3 前腕・手関節の損傷・疾患について学ぶ	上肢の構造を予習しておく 前腕・手関節の損傷・疾患を復習する
	到達目標	前腕・手関節の損傷・疾患を理解できる	
10	授業内容	部位別各論 上肢 4 手・手指の損傷・疾患について学ぶ	上肢の解剖を予習しておく 手・手指の損傷・疾患を復習する
	到達目標	手・手指の損傷・疾患を理解できる	
11	授業内容	部位別各論 下肢 1 骨盤・股関節の損傷・疾患について学ぶ	下肢の解剖を予習しておく 骨盤・股関節の損傷・疾患を復習する
	到達目標	骨盤・股関節の損傷・疾患を理解できる	
12	授業内容	部位別各論 下肢 2 大腿・膝関節の損傷・疾患について学ぶ	下肢の解剖を予習しておく 大腿・膝関節の損傷・疾患を復習する
	到達目標	大腿・膝関節の損傷・疾患を理解できる	
13	授業内容	部位別各論 下肢 3 下腿・足関節の損傷・疾患について学ぶ	下肢の解剖を予習しておく 下腿・足関節の損傷・疾患を復習する
	到達目標	下腿・足関節の損傷・疾患を理解できる	
14	授業内容	部位別各論 下肢 4 足・足趾の損傷・疾患について学ぶ	下肢の解剖を予習しておく 足・足趾の損傷・疾患を復習する
	到達目標	足・足趾の損傷・疾患を理解できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を習得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	外科学概論Ⅱ	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有・ 
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	角谷 英治	E-mail			実施時期	3年 前期	

授業の目的

柔道整復師が施術を行う上では、業務外の病態との鑑別も必要となります。この科目ではとくに外科領域の疾患・損傷とそれに対する対処法・治療法を理解し、柔道整復師として必要な知識を習得することを目的とします。

到達目標

外科的疾患・損傷及び対処法・治療法を理解することができる。
以上の事項を柔道整復師としての業務に応用することができる。

授業の内容

外科学の基礎的な内容を学びます。
主要な疾患・損傷の概要を学びます。
教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。

注意事項

教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。
授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
途中退席は欠席扱いになることがあります。
課題の提出を求めることがあります。

成績評価

授業時間数の2/3以上の出席が評価対象となります。
学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100点満点で評価します。
合計点が60点以上で合格となります。

テキスト

外科学概論 改訂第3版 全国柔道整復学校協会監修 炭山嘉伸編 南江堂
柔道整復師のための救急医学 全国柔道整復学校協会監修 太田祥一編 南江堂

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：
時間： 時 分～ 時 分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、脳神経外科疾患1 脳神経系の構造、疾患の主要徴候について学ぶ	脳・神経系の構造、疾患の主要徴候を復習する
	到達目標	脳神経系の構造、疾患の主要徴候を理解できる	
2	授業内容	脳神経外科疾患2 中枢性疾患特有の病態、検査について学ぶ	脳・神経系の構造を予習しておく 中枢性疾患特有の病態、検査を復習する
	到達目標	中枢性疾患特有の病態、検査を理解できる	
3	授業内容	脳神経外科疾患3 主な神経性疾患について学ぶ	頭部の構造を予習しておく 主な神経性疾患を復習する
	到達目標	主な神経性疾患を理解できる	
4	授業内容	甲状腺・頸部疾患、胸壁・呼吸器疾患1 甲状腺疾患、頸部疾患、胸部の検査と手術について学ぶ	頸部・胸部の解剖を予習しておく 甲状腺疾患、頸部疾患、胸部の検査と手術を復習する
	到達目標	甲状腺疾患、頸部疾患、胸部の検査と手術を理解できる	
5	授業内容	胸壁・呼吸器疾患2 肺疾患、胸膜疾患、胸部損傷について学ぶ	胸部の構造を予習しておく 肺疾患、胸膜疾患、胸部損傷を復習する
	到達目標	肺疾患、胸膜疾患、胸部損傷を理解できる	
6	授業内容	心臓・脈管疾患1 検査法・手術、先天性心疾患、弁膜症、心膜炎について学ぶ	脈管系の解剖を予習しておく 検査法・手術、先天性心疾患、弁膜症、心膜炎を復習する
	到達目標	検査法・手術、先天性心疾患、弁膜症、心膜炎を理解できる	
7	授業内容	心臓・脈管疾患2 心筋症、心臓腫瘍、心筋炎、虚血性心疾患について学ぶ	脈管系の解剖を予習しておく 心筋症、心臓腫瘍、心筋炎、虚血性心疾患を復習する
	到達目標	心筋症、心臓腫瘍、心筋炎、虚血性心疾患を理解できる	
8	授業内容	心臓・脈管疾患3 動脈・静脈疾患について学ぶ	脈管系の解剖を予習しておく 動脈・静脈疾患を復習する
	到達目標	動脈・静脈疾患を理解できる	
9	授業内容	乳腺疾患 乳腺部の診断・主な疾患について学ぶ	乳腺部の解剖を予習しておく 乳腺部の診断・主な疾患を復習する
	到達目標	乳腺部の診断・主な疾患を理解できる	
10	授業内容	腹部外科疾患1 消化器の解剖と生理について学ぶ	消化器の解剖・機能を予習しておく 消化器の解剖と生理を復習する
	到達目標	消化器の解剖と生理を理解できる	
11	授業内容	腹部外科疾患2 腹部疾患の主な症状について学ぶ	消化器の解剖・機能を予習しておく 腹部疾患の主な症状を復習する
	到達目標	腹部疾患の主な症状を理解できる	
12	授業内容	腹部外科疾患3 腹部疾患の主な検査について学ぶ	消化器の解剖・機能を予習しておく 腹部疾患の主な検査を復習する
	到達目標	腹部疾患の主な検査を理解できる	
13	授業内容	腹部外科疾患4 食道疾患、胃十二指腸疾患、大腸疾患について学ぶ	消化管を予習しておく 食道疾患、胃十二指腸疾患、大腸疾患を復習する
	到達目標	食道疾患、胃十二指腸疾患、大腸疾患を理解できる	
14	授業内容	腹部外科疾患5 肝・胆・膵疾患、その他の腹部外科疾患について学ぶ	消化腺を予習しておく 肝・胆・膵疾患、その他の腹部外科疾患を復習する
	到達目標	肝・胆・膵疾患、その他の腹部外科疾患を理解できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を習得している	

【柔整学科授業シラバス】


科目名	リハビリテーション 概論Ⅱ	単位数	1 単位	授業形態	演習	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	松本 和久	E-mail			実施時期	3 年 前期	

授業の目的							
柔道整復師に必要な外傷による運動器の機能障害に対する機能回復訓練法の知識及び技術を身につけることを目的とします。							
到達目標							
種々の機能訓練方法を理解することができる。 種々の機能訓練方法を行うことができる。							
授業の内容							
臨床に即した形で、種々の訓練方法を、時代背景を踏まえながら実技を交えて実施していきます。 教科書・配布プリントを基に、板書及び必要に応じプロジェクターを使用して授業を行います。							
注意事項							
教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退席は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。							
成績評価							
授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。 学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。 合計点が 60 点以上で合格となります。							
テキスト							
一般臨床医学 改訂第 3 版 全国柔道整復学校協会監修 奈良信雄他著編 医歯薬出版株式会社							
参考文献・図書							
オフィスアワーについて							
曜日： 時間： 時 分～ 時 分							
授業時間外の学習について							
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。							

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、機能回復訓練法を学ぶにあたって 訓練法の概要と種類について学ぶ	機能回復訓練法の概要と種類を 復習する
	到達目標	訓練法の概要と種類を理解できる	
2	授業内容	アスレティックトレーナー アスレティックトレーナーの仕事・役割について学ぶ	アスレティックトレーナーの仕 事・役割を復習する
	到達目標	アスレティックトレーナーの仕事・役割を理解できる	
3	授業内容	スポーツ外傷 スポーツで発生する外傷について学ぶ	柔整理論各論を予習しておく スポーツで発生する外傷を復習 する
	到達目標	スポーツで発生する外傷を理解できる	
4	授業内容	スポーツ外傷類似症状と伝統的診察法 スポーツ外傷と間違えやすい症状と伝統的に行われている診 察法について学ぶ	柔整理論各論を予習しておく スポーツ外傷類似症状と伝統的 診察法を復習する
	到達目標	スポーツ外傷類似症状と伝統的診察法を理解できる	
5	授業内容	機能障害と筋力低下 スポーツ外傷による機能障害と筋力低下について学ぶ	運動器の評価を予習しておく スポーツ外傷による機能障害と 筋力低下を復習する
	到達目標	スポーツ外傷による機能障害と筋力低下を理解できる	
6	授業内容	関節モビライゼーション 関節モビライゼーションの方法と実際について学ぶ	関節の構造を予習しておく 関節モビライゼーションの方法 と実際を復習する
	到達目標	関節モビライゼーションの方法を理解し、実践できる	
7	授業内容	PNF PNFの方法と実際について学ぶ	神経・筋の構造を予習しておく PNFの方法と実際を復習する
	到達目標	PNFの方法を理解し、実践できる	
8	授業内容	DYJOC(動的関節制動訓練) DYJOCの方法と実際について学ぶ	関節の構造を予習しておく DYJOCの方法と実際を復習 する
	到達目標	DYJOCの方法を理解し、実践できる	
9	授業内容	認知運動療法 認知運動療法の方法と実際について学ぶ	脳・伝導路を予習しておく 認知運動療法の方法と実際を復 習する
	到達目標	認知運動療法の方法を理解し、実践できる	
10	授業内容	痛み 痛みのメカニズムと痛みへのアプローチについて学ぶ	生理学の感覚を予習しておく 痛みのメカニズム・アプローチを 復習する
	到達目標	痛みのメカニズムを理解し、痛みへのアプローチを実践できる	
11	授業内容	伝統的治療法 スポーツ外傷に対する伝統的治療法と実際について学ぶ	スポーツ外傷を予習しておく スポーツ外傷に対する伝統的治 療法と実際を復習する
	到達目標	スポーツ外傷に対する伝統的治療法を理解し、実践できる	
12	授業内容	膝 膝のスポーツ外傷と訓練法について学ぶ	膝の構造を予習しておく 膝のスポーツ外傷と訓練法を復 習する
	到達目標	膝のスポーツ外傷を理解し、訓練法を実践できる	
13	授業内容	腰 腰のスポーツ外傷と訓練法について学ぶ	腰の構造を予習しておく 腰のスポーツ外傷と訓練法など を復習する
	到達目標	腰のスポーツ外傷を理解し、訓練法を実践できる	
14	授業内容	肩 肩のスポーツ外傷と訓練法について学ぶ	肩の構造を予習しておく 肩のスポーツ外傷と訓練法を復 習する
	到達目標	肩のスポーツ外傷を理解し、訓練法を実践できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本演習の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本演習の内容について知識を習得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	柔道V	単位数	1 単位	授業形態	実習	実務経験の有無	有・ 
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	沖 和久	E-mail		実施時期	3年 前期		

授業の目的

1. 投技・固技の基本的な動きを身につける。
2. 相手を尊重する態度や協力して練習ができるようにする。
3. 受け身の重要性を充分理解し、できるようにする。
4. 初段程度の技量の習得。

到達目標

受身・投技・固め技について初段程度の技量を取得する。
有段者は昇段もしくは形大会入賞レベルの技量を取得する。

授業の内容

1. 教員が実技を行いながら口頭で説明する。
2. 教員の説明を理解し、指示された実技を行う。
3. 形を理解し、指示された実技を行う。

注意事項

1. 受け身の重要性を充分理解すること。
2. 準備体操を怠らないようにすること。

成績評価

1. 試験期間中に実技試験を行い、その結果と平常の態度（出席、受講態度等）で評価を行う。
2. 総授業回数の4/5以上出席した者を評価の対象とする。1/5以上欠席した者は評価対象外（単位認定の対象外）となるので出席の管理は個人の責任において行うこと。
3. 平常点（出席・態度）20点、実技点80点、合計100点で評価を行う。
4. 減点については、欠席5点、遅刻・早退2点、見学2点、柔道着忘れ2点の減点とする。
5. 実技試験と平常の成績の合計点数が60点以上の者を及第とし単位を認定する。
6. 試験内容は、礼法、前回り受け身、形を行う。
7. 見学者は、授業終了後にレポートを提出すること。当日未提出者については3点減点とする。

テキスト

柔道

参考文献・図書

講道館柔道DVD投の形（講道館）

オフィスアワーについて

曜日： 毎週木曜

時間： 16時20分～ 17時50分


授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション 投げ技復習（浮落）基本動作と技の実際（復習）・乱取り	浮落の復習をしておく。 背負投の予習をしておく。
	到達目標	浮落を入れた乱取りができるようになる。	
2	授業内容	投げ技復習（背負投）基本動作と技の実際（復習）・乱取り	背負投の復習をしておく。 肩車の予習をしておく。
	到達目標	背負投を入れた乱取りができるようになる。	
3	授業内容	投げ技復習（肩車）基本動作と技の実際（復習）・乱取り	肩車の復習をしておく。 背負投の予習をしておく。
	到達目標	肩車を入れた乱取りができるようになる。	
4	授業内容	投げ技復習（一本背負投）基本動作と技の実際（復習）・乱取り	一本背負投の復習をしておく。
	到達目標	一本背負投を入れた乱取りができるようになる。	
5	授業内容	形まとめ、礼法、途中の動作等の復習	浮落の復習をしておく。 背負投の予習をしておく。
	到達目標	手技を組み込んだ約束乱取りができるようになる。	
6	授業内容	投げ技復習（浮腰）基本動作と技の実際（復習）・乱取り	浮腰の復習をしておく。 釣込腰の予習をしておく。
	到達目標	浮腰を入れた乱取りができるようになる。	
7	授業内容	投げ技復習（釣込腰）基本動作と技の実際（復習）・乱取り	釣込腰の復習をしておく。 払腰の予習をしておく。
	到達目標	釣込腰を入れた乱取りができるようになる。	
8	授業内容	投げ技復習（払腰）基本動作と技の実際（復習）・乱取り	払腰の復習をしておく。
	到達目標	払腰を入れた乱取りができるようになる。	
9	授業内容	形まとめ、礼法、途中の動作等の復習	送足払の予習をしておく。
	到達目標	腰技を組み込んだ約束乱取りができるようになる。	
10	授業内容	投げ技復習（送足払）基本動作と技の実際（復習）・乱取り	送足払の復習をしておく。 支釣込足の予習をしておく。
	到達目標	送足払を入れた乱取りができるようになる。	
11	授業内容	投げ技復習（支釣込足）基本動作と技の実際（復習）・乱取り	支釣込足の復習をしておく。 内股の予習をしておく。
	到達目標	支釣込足を入れた乱取りができるようになる。	
12	授業内容	投げ技復習（内股）基本動作と技の実際（復習）・乱取り	内股の復習をしておく。
	到達目標	内股を入れた乱取りができるようになる。	
13	授業内容	礼法基本動作と技の確認Ⅰ	形（取り）の流れを復習しておく。
	到達目標	作法・礼法を確認し、細かいミスをなくすことができる。	
14	授業内容	礼法基本動作と技の確認Ⅱ	形（受け）の流れを復習しておく。
	到達目標	作法・礼法から形の手順ミスをなくすことができる。	
15	授業内容	まとめ	
	到達目標		

【柔整学科授業シラバス】

科目名	柔道Ⅵ	単位数	1 単位	授業形態	実習	実務経験の有無	有・ 
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	沖 和久	E-mail			実施時期	3年 後期	

授業の目的	
柔道で気を付ける外傷を学び、その鑑別や処置、予防法などを習得する。	
到達目標	
教科書で学習した内容を実践し、柔道中に起こった外傷に対応できる技量を習得する。	
授業の内容	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 技ごとの危険な行為のスライドを使い、口頭で説明する。 2. 外傷の受傷機転と症状を再現し、その医療面接と処置を実践する。 	
注意事項	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 柔整理論を復習し、基礎固定実技の内容も復習しておくこと。 2. 途中退室した場合、欠席扱いになることがあります。 	
成績評価	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 試験期間中に実技試験を行い、その結果と平常の態度（出席、受講態度等）で評価を行う。 2. 総授業回数の4／5以上出席した者を評価の対象とする。1／5以上欠席した者は評価対象外（単位認定の対象外）となるので出席の管理は個人の責任において行うこと。 3. 平常点（出席・態度）20点、実技点80点、合計100点で評価を行う。 4. 減点については、欠席5点、遅刻・早退2点、見学2点、柔道着忘れ2点の減点とする。 5. 実技試験と平常の成績の合計点数が60点以上の者を及第とし単位を認定する。 6. 試験内容は、礼法、前回り受け身、形を行う。 7. 見学者は、授業終了後にレポートを提出すること。当日未提出者については3点減点とする。 	
テキスト	
柔道 柔道整復学 理論編・実技編	
参考文献・図書	
オフィスアワーについて 曜日： 毎週木曜 時間： 16時20分～ 17時50分	
授業時間外の学習について	
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。	

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション・鎖骨骨折の概要と受傷機転	鎖骨骨折の復習をしておくこと。 整復、固定の予習をしておくこと。
	到達目標	鎖骨骨折の概要と受傷機転が理解できるようになる。	
2	授業内容	鎖骨骨折の整復、固定	鎖骨骨折の復習をしておくこと。 肩鎖関節脱臼の予習をしておくこと。
	到達目標	鎖骨骨折の整復、固定ができるようになる。	
3	授業内容	肩鎖関節脱臼の概要と受傷機転	肩鎖関節脱臼の復習をしておくこと。 整復、固定の予習をしておくこと。
	到達目標	肩鎖関節脱臼の概要と受傷機転が理解できるようになる。	
4	授業内容	肩鎖関節脱臼の整復、固定	肩鎖関節脱臼の復習をしておくこと。 肩関節脱臼の予習をしておくこと。
	到達目標	肩鎖関節脱臼の整復、固定ができるようになる。	
5	授業内容	肩関節脱臼の概要と受傷機転	肩関節脱臼の復習をしておくこと。 整復・固定の予習をしておくこと。
	到達目標	肩関節脱臼の概要と受傷機転が理解できるようになる。	
6	授業内容	肩関節脱臼の整復、固定	肩関節脱臼の復習をしておくこと。 肘関節後方脱臼の予習をしておくこと。
	到達目標	肩関節脱臼の整復、固定ができるようになる。	
7	授業内容	肘関節後方脱臼の概要と受傷機転	肘関節後方脱臼の復習をしておくこと。 整復、固定の予習をしておくこと。
	到達目標	肘関節後方脱臼の概要と受傷機転が理解できるようになる。	
8	授業内容	肘関節後方脱臼の整復、固定	肘関節後方脱臼の復習をしておくこと。 MCL 損傷の予習をしておくこと。
	到達目標	肘関節後方脱臼の整復、固定ができるようになる。	
9	授業内容	肘関節内側側副靭帯損傷の概要と受傷機転	MCL 損傷の復習をしておくこと。 診断と固定の予習をしておくこと。
	到達目標	肘関節内側側副靭帯の概要と受傷機転が理解できるようになる。	
10	授業内容	肘関節内側側副靭帯損傷の診断と固定	MCL の復習をしておくこと。 橈骨遠位端部骨折の予習をしておくこと。
	到達目標	肘関節内側側副靭帯損傷の診断、固定ができるようになる。	
11	授業内容	橈骨遠位端部骨折の概要と受傷機転	コーレス骨折の復習をしておくこと。 整復・固定の予習をしておくこと。
	到達目標	橈骨遠位端部骨折の概要と受傷機転が理解できるようになる。	
12	授業内容	橈骨遠位端部骨折の整復、固定	コーレス骨折の復習をしておくこと。 ACL の予習をしておく。
	到達目標	橈骨遠位端部骨折の整復、固定ができるようになる。	
13	授業内容	前十字靭帯損傷の概要と受傷機転	ACL の復習をしておく。 診察、固定の予習をしておくこと。
	到達目標	前十字靭帯損傷の概要と受傷機転が理解できるようになる。	
14	授業内容	前十字靭帯損傷の診断と固定	ACL の復習をしておく。
	到達目標	前十字靭帯損傷の診断、固定ができるようになる。	
15	授業内容	まとめ	
	到達目標		

【整学科授業シラバス】

科目名	関係法規	単位数	2 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	丹生 利博	E-mail			実施時期	3 年	前期

授業の目的
柔道整復師として業務に従事するうえで、「柔道整復師法」は当然ながら、その業務や医療従事者一般として必要な医事福祉法規も理解しておくことが望ましい。
到達目標
柔道整復師および柔道整復に関する法規を理解する。 医療従事者として必要な法規を理解する。
授業の内容
柔道整復師の免許・業務に関する法を学習する。 施術所に関する法を学習する。 医療従事者の資格法、医療法、社会福祉・社会保険関係法規を学習する。
注意事項
教科書、筆記用具、ノート、配布プリントを持参してください。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退室は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。
成績評価
出席日数が授業日数の 2/3 に満たない場合は、期末試験の受験資格を失い単位を取得することはできません。 成績は期末試験にて評価し 60 点以上で合格となります。
テキスト
「関係法規 改訂第 2 版」 全国柔道整復学校協会 監修
参考文献・図書
官報 https://kanpou.npb.go.jp/index.html 法令検索 http://www.e-gov.go.jp/index.html
オフィスアワーについて
曜日： 時間： 時 分～ 時 分
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション 法の意義と体系	授業内容を復習する 患者の権利を予習する
	到達目標	上記内容を理解できる	
2	授業内容	患者の権利、医療事故と医療過誤	授業内容を復習する 柔道整復師法を予習する
	到達目標	上記内容を理解できる	
3	授業内容	柔道整復師法(総則)	授業内容を復習する 免許要件を予習する
	到達目標	上記内容を理解できる	
4	授業内容	柔道整復師法(免許要件)	授業内容を復習する 柔道整復師名簿を予習する
	到達目標	上記内容を理解できる	
5	授業内容	柔道整復師法(柔道整復師名簿)	授業内容を復習する 柔道整復師の免許証を予習する
	到達目標	上記内容を理解できる	
6	授業内容	柔道整復師法(免許証)	授業内容を復習する 柔道整復師の業務を予習する
	到達目標	上記内容を理解できる	
7	授業内容	柔道整復師法(業務)	授業内容を復習する 施術所を予習する
	到達目標	上記内容を理解できる	
8	授業内容	柔道整復師法(施術所)	授業内容を復習する 広告を予習する
	到達目標	上記内容を理解できる	
9	授業内容	柔道整復師法(広告)	授業内容を復習する 罰則を予習する
	到達目標	上記内容を理解できる	
10	授業内容	柔道整復師法(罰則)	授業内容を復習する 医師法を予習する
	到達目標	上記内容を理解できる	
11	授業内容	医療従事者の資格法(医師法)	授業内容を復習する 保健師助産師看護師法を予習する
	到達目標	上記内容を理解できる	
12	授業内容	医療従事者の資格法(保健師助産師看護師法他)	授業内容を復習する 医療法を予習する
	到達目標	上記内容を理解できる	
13	授業内容	医療法	授業内容を復習する 社会保険関係法規を予習する
	到達目標	上記内容を理解できる	
14	授業内容	社会福祉関係法規、社会保険関係法規	授業内容を復習する
	到達目標	上記内容を理解できる	
15	授業内容	まとめ（評価含む）	
	到達目標	本講義の内容について修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	医療概論	単位数	1 単位	授業形態	演習	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	15 時間				
実務経験内容							
担当者	北川 肇	E-mail		実施時期	3年 後期		

授業の目的

柔道整復師免許取得後は医療の現場で働くこととなります。この科目では医療の現場に必要な医療人としての職業倫理を中心とした倫理を身につけることを目的とします。

到達目標

- 職業倫理について理解することができる。
- 医療人としての職業倫理について理解することができる。

授業の内容

- 職業倫理・医療人としての職業倫理を学びます。
- グループに分かれ、職業倫理について話し合います。
- 総意を発表し、それに対し議論をします。

注意事項

- 筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。
- 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
- 途中退席は欠席扱いになることがあります。
- 課題の提出を求めることがあります。

成績評価

- 授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。
- 学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。
- 合計点が 60 点以上で合格となります。

テキスト

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：
時間： 時 分～ 時 分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、職業倫理 概要、医の倫理について学ぶ	概要、医の倫理を復習する
	到達目標	概要、医の倫理を理解できる	
2	授業内容	個人情報 概要、法律、医療との関連について学ぶ	個人情報に関する法律を予習しておく 概要、法律、医療との関連を復習する
	到達目標	概要、法律、医療との関連を理解できる	
3	授業内容	守秘義務 法律、開示、SNS などについて学ぶ	守秘義務に関する法律を予習しておく 法律、開示、SNSなどを復習する
	到達目標	法律、開示、SNSなどを理解できる	
4	授業内容	インフォームド・コンセント 説明・同意、対象者などについて学ぶ	インフォームド・コンセントに関する法律・宣言を予習しておく インフォームド・コンセントを復習する
	到達目標	説明・同意、対象者などを理解ができる	
5	授業内容	ハラスメント ハラスメントの内容について学ぶ。グループワークを行う	ハラスメントの種類を予習しておく ハラスメントの内容を復習する
	到達目標	ハラスメントの内容を理解できる	
6	授業内容	差別 障害者・人種などに対する差別について学ぶ	種々の差別について予習しておく 障害者・人種などに対する差別を復習する
	到達目標	障害者・人種などに対する差別を理解できる	
7	授業内容	尊厳死・安楽死、延命医療 グループワークを行い、意見を出し合う	死や延命について自分の考えをまとめておく 尊厳死・安楽死、延命医療を復習する
	到達目標	尊厳死・安楽死、延命医療を理解できる	
8	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	これまでの内容について復習しておく 骨折の合併症を復習する
	到達目標	本講義の内容について知識を習得している	
9	授業内容		
	到達目標		
10	授業内容		
	到達目標		
11	授業内容		
	到達目標		
12	授業内容		
	到達目標		
13	授業内容		
	到達目標		
14	授業内容		
	到達目標		
15	授業内容		
	到達目標		

【柔整学科授業シラバス】

科目名	社会保障制度	単位数	1 単位	授業形態	演習	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	15 時間				
実務経験内容							
担当者	丹生 利博	E-mail			実施時期	3 年 後期	

授業の目的

柔道整復学は開業することが可能であることから医療費等の社会保障制度は理解することにより、健康や障害の状態に応じて社会資源を活用できるような知識を身につけることを目的とします。

到達目標

- 社会保障制度の概要を理解することができる。
- 柔道整復師が関わる保険制度を理解することができる。
- 柔道整復師の保険施術料金を計算することができる。

授業の内容

- 社会保障制度の概要を学びます。
- 柔道整復師が関わる保険制度について学びます。
- 保険施術料金を学びます。
- グループに分かれて計算し、解答を導き出します。

注意事項

- 筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。
- 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
- 途中退出は欠席扱いになることがあります。
- 課題の提出を求めることがあります。

成績評価

- 授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。
- 学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。
- 合計点が 60 点以上で合格となります。

テキスト

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：
時間： 時 分～ 時 分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、社会保障制度 1 概要、社会保険について学ぶ	概要、社会保険を復習する
	到達目標	概要、社会保険を理解できる	
2	授業内容	社会保障制度 2 社会福祉について学ぶ	社会福祉に関する法律を予習しておく 社会福祉を復習する
	到達目標	社会福祉を理解できる	
3	授業内容	社会保障制度 3 公的扶助、保健医療・公衆衛生について学ぶ	公的扶助・保険医療に関する法律を予習しておく 公的扶助、保健医療・公衆衛生を復習する
	到達目標	公的扶助、保健医療・公衆衛生を理解できる	
4	授業内容	医療費 1 柔道整復師が関連する療養費について学ぶ	療養費を予習しておく 柔道整復師が関連する療養費を復習する
	到達目標	柔道整復師が関連する療養費を理解できる	
5	授業内容	医療費 2 療養費の計算をグループワークで行う	療養費の金額を予習しておく 療養費の計算を復習する
	到達目標	療養費の計算ができる	
6	授業内容	医療費 3 療養費の計算をグループワークで行う	療養費の金額を予習しておく 療養費の計算を復習する
	到達目標	療養費の計算ができる	
7	授業内容	医療費 4 労働保険、交通事故の費用について学ぶ。適応・不適応をグループワークにおいて話し合う	労働保険を予習しておく 労働保険、交通事故の費用、適応・不適応を復習する
	到達目標	労働保険、交通事故の費用、適応・不適応を理解できる	
8	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を習得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	柔道整復人体構造学	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	④ ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校付属治療所柔整科勤務					
担当者	石橋 重良	E-mail		実施時期	3 年 前期		

授業の目的							
疾患に対する病態を判断するには人体の正常な状態を理解することが大切です。本講義では病的状態を理解し判断するために基礎知識(解剖学・生理学)の理解を深めることを目的とします。							
到達目標							
骨の解剖・生理、筋の解剖・生理、神経の解剖・生理、感覚器の解剖・生理							
授業の内容							
教科書を読み、黒板板書やプリントによる問題演習をすることで、骨の解剖・生理、筋の解剖・生理、神経の解剖・生理、感覚器の解剖・生理を理解する。 なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。							
注意事項							
教科書、筆記用具、ノート、配布プリントを持参してください。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退室は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。							
成績評価							
出席日数が授業日数の 2/3 に満たない場合は、期末試験の受験資格を失い単位を取得することはできません。 成績は期末試験にて評価し 60 点以上で合格となります。							
テキスト							
参考文献・図書							
オフィスアワーについて							
曜日： 時間： 時 分～ 時 分							
授業時間外の学習について							
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。							

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション 人体の正常な状態と病的状態	授業内容を復習する 骨格、骨の代謝を予習する
	到達目標	上記内容を理解できる	
2	授業内容	骨の解剖・生理(骨格、骨の代謝)	授業内容を復習する 関節を予習する
	到達目標	上記内容を理解できる	
3	授業内容	骨の解剖・生理(関節)	授業内容を復習する 筋の種類、受容器と神経を予習する
	到達目標	上記内容を理解できる	
4	授業内容	筋の解剖・生理(筋の種類、受容器と神経)	授業内容を復習する 上肢の筋を予習する
	到達目標	上記内容を理解できる	
5	授業内容	筋の解剖・生理(上肢の筋)	授業内容を復習する 下肢・体幹の筋を予習する
	到達目標	上記内容を理解できる	
6	授業内容	筋の解剖・生理(下肢・体幹の筋)	授業内容を復習する 神経細胞を予習する
	到達目標	上記内容を理解できる	
7	授業内容	神経の解剖・生理(神経細胞)	授業内容を復習する 脳、脳神経を予習する
	到達目標	上記内容を理解できる	
8	授業内容	神経の解剖・生理(脳、脳神経)	授業内容を復習する 脊髄、自律神経を予習する
	到達目標	上記内容を理解できる	
9	授業内容	神経の解剖・生理(脊髄、自律神経)	授業内容を復習する 上肢の脊髄神経を予習する
	到達目標	上記内容を理解できる	
10	授業内容	神経の解剖・生理(脊髄神経-上肢)	授業内容を復習する 下肢の脊髄神経を予習する
	到達目標	上記内容を理解できる	
11	授業内容	神経の解剖・生理(脊髄神経-下肢)	授業内容を復習する 皮膚を予習する
	到達目標	上記内容を理解できる	
12	授業内容	感覚器の解剖・生理(皮膚)	授業内容を復習する 視覚、嗅覚、味覚を予習する
	到達目標	上記内容を理解できる	
13	授業内容	感覚器の解剖・生理(視覚、嗅覚、味覚)	授業内容を復習する 聴覚、平衡覚を予習する
	到達目標	上記内容を理解できる	
14	授業内容	感覚器の解剖・生理(聴覚、平衡覚)	授業内容を復習する
	到達目標	上記内容を理解できる	
15	授業内容	まとめ（評価含む）	
	到達目標	本講義の内容について修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	柔道整復人体機能学	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	④ ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校付属治療所柔整科勤務					
担当者	斎藤 雅高	E-mail		実施時期	3 年	前期	

授業の目的
疾患に対する病態を判断するには人体の正常な状態を理解することが大切です。本講義では病的状態を理解し判断するために基礎知識(解剖学・生理学)の理解を深めることを目的とします。
到達目標
呼吸器の解剖・生理、循環器の解剖・生理、消化器の解剖・生理、泌尿器の解剖・生理、内分泌器の解剖・生理
授業の内容
教科書を読み、黒板板書やプリントによる問題演習をすることで、呼吸器の解剖・生理、循環器の解剖・生理、消化器の解剖・生理、泌尿器の解剖・生理、内分泌器の解剖・生理を理解する。 なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。
注意事項
教科書、筆記用具、ノート、配布プリントを持参してください。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退室は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。
成績評価
出席日数が授業日数の 2/3 に満たない場合は、期末試験の受験資格を失い単位を取得することはできません。 成績は期末試験にて評価し 60 点以上で合格となります。
テキスト
参考文献・図書
オフィスアワーについて
曜日： 時間： 時 分～ 時 分
授業時間外の学習について
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション 人体の正常な状態と病的状態	授業内容を復習する 心臓を予習する
	到達目標	上記内容を理解できる	
2	授業内容	循環器の解剖・生理(心臓)	授業内容を復習する 循環の調節を予習する
	到達目標	上記内容を理解できる	
3	授業内容	循環器の解剖・生理(循環の調節)	授業内容を復習する 動脈を予習する
	到達目標	上記内容を理解できる	
4	授業内容	循環器の解剖・生理(動脈)	授業内容を復習する 静脈を予習する
	到達目標	上記内容を理解できる	
5	授業内容	循環器の解剖・生理(静脈)	授業内容を復習する 気道、肺を予習する
	到達目標	上記内容を理解できる	
6	授業内容	呼吸器の解剖・生理(気道、肺)	授業内容を復習する 呼吸の調節を予習する
	到達目標	上記内容を理解できる	
7	授業内容	呼吸器の解剖・生理(呼吸の調節)	授業内容を復習する 消化管、消化腺を予習する
	到達目標	上記内容を理解できる	
8	授業内容	消化器の解剖・生理(消化管、消化腺)	授業内容を復習する 消化、吸収を予習する
	到達目標	上記内容を理解できる	
9	授業内容	消化器の解剖・生理(消化、吸収)	授業内容を復習する 腎臓、尿路を予習する
	到達目標	上記内容を理解できる	
10	授業内容	泌尿器の解剖・生理(腎臓、尿路)	授業内容を復習する 尿の生成と調節を予習する
	到達目標	上記内容を理解できる	
11	授業内容	泌尿器の解剖・生理(尿の生成と調節)	授業内容を復習する 下垂体、甲状腺、副甲状腺を予習する
	到達目標	上記内容を理解できる	
12	授業内容	内分泌器の解剖・生理(下垂体、甲状腺、副甲状腺)	授業内容を復習する 副腎を予習する
	到達目標	上記内容を理解できる	
13	授業内容	内分泌器の解剖・生理(副腎)	授業内容を復習する 膵臓、性腺を予習する
	到達目標	上記内容を理解できる	
14	授業内容	内分泌器の解剖・生理(膵臓、性腺)	授業内容を復習する
	到達目標	上記内容を理解できる	
15	授業内容	まとめ（評価含む）	
	到達目標	本講義の内容について修得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	柔道整復診察法	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	㊦ ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校付属治療所柔整科勤務					
担当者	斎藤 雅高	E-mail		実施時期	3年 後期		

授業の目的

これまでに学習してきた一般臨床医学及び外科学の確認・復習を行い確実な知識を獲得することを目的とします。

到達目標

一般臨床医学に対する知識の習熟度を確認することができる。
外科学に対する知識の習熟度を確認することができる。

授業の内容

一般臨床医学に対する知識を深めていきます。
外科学に対する知識を深めていきます。
問題を解き、それに対する解説をしていきます。
なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。

注意事項

教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。
授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
途中退席は欠席扱いになることがあります。
課題の提出を求めることがあります。

成績評価

授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。
学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。
合計点が 60 点以上で合格となります。

テキスト

一般臨床医学 改訂第 3 版 全国柔道整復学校協会監修 奈良信雄他著 医歯薬出版株式会社
外科学概論 改訂第 3 版 全国柔道整復学校協会監修 炭山嘉伸編 南江堂
柔道整復師のための救急医学 全国柔道整復学校協会監修 太田祥一編 南江堂

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：
時間： 時 分～ 時 分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、一般臨床医学1 医療面接・視診について復習する	医療面接・視診を復習しておく
	到達目標	医療面接・視診を理解できる	
2	授業内容	一般臨床医学2 各部の視診、打診、聴診について復習する	視診、打診、聴診を復習しておく
	到達目標	各部の視診、打診、聴診を理解できる	
3	授業内容	一般臨床医学3 触診、生命徴候、感覚・反射検査について復習する	触診、生命徴候、感覚・反射検査を復習しておく
	到達目標	触診、生命徴候、感覚・反射検査を理解できる	
4	授業内容	一般臨床医学4 呼吸器疾患、循環器疾患について復習する	呼吸器疾患、循環器疾患を復習しておく
	到達目標	呼吸器疾患、循環器疾患を理解ができる	
5	授業内容	一般臨床医学5 消化器疾患、代謝疾患について復習する	消化器疾患、代謝疾患を復習しておく
	到達目標	消化器疾患、代謝疾患を理解できる	
6	授業内容	一般臨床医学6 内分泌疾患、血液・造血疾患について復習する	内分泌疾患、血液・造血疾患を復習しておく
	到達目標	内分泌疾患、血液・造血疾患を理解できる	
7	授業内容	一般臨床医学7 腎・尿路疾患、神経疾患、感染症、膠原病について復習する	腎・尿路疾患、神経疾患、感染症、膠原病を復習しておく
	到達目標	腎・尿路疾患、神経疾患、感染症、膠原病を理解できる	
8	授業内容	外科学概論1 損傷・創傷、熱傷、炎症・外科感染症について復習する	損傷・創傷、熱傷、炎症・外科感染症を復習しておく
	到達目標	損傷・創傷、熱傷、炎症・外科感染症を理解できる	
9	授業内容	外科学概論2 腫瘍、ショック、輸血・輸液について復習する	腫瘍、ショック、輸血・輸液を復習しておく
	到達目標	腫瘍、ショック、輸血・輸液を理解できる	
10	授業内容	外科学概論3 消毒と滅菌、手術、麻酔について復習する	消毒と滅菌、手術、麻酔を復習しておく
	到達目標	消毒と滅菌、手術、麻酔を理解できる	
11	授業内容	外科学概論4 移植と免疫、出血と止血、心肺蘇生法について復習する	移植と免疫、出血と止血、心肺蘇生法を復習しておく
	到達目標	移植と免疫、出血と止血、心肺蘇生法を理解できる	
12	授業内容	外科学概論5 脳神経外科疾患について復習する	脳神経外科疾患を復習しておく
	到達目標	脳神経外科疾患を理解できる	
13	授業内容	外科学概論6 胸壁・呼吸器疾患について復習する	胸壁・呼吸器疾患を復習しておく
	到達目標	胸壁・呼吸器疾患を理解できる	
14	授業内容	外科学概論7 腹部外科疾患について復習する	腹部外科疾患を復習しておく
	到達目標	腹部外科疾患を理解できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を習得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	運動器外傷 機能訓練法	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	④ ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務					
担当者	宗友 宏行	E-mail		実施時期	3年 後期		

授業の目的

これまでに学習してきた整形外科学及びリハビリテーション医学の確認・復習を行い、確実な知識を獲得することを目的とします。

到達目標

- 整形外科学に対する知識の習熟度を確認することができる。
- リハビリテーション医学に対する知識の習熟度を確認することができる。

授業の内容

- 整形外科学に対する知識を深めていきます。
- リハビリテーション医学に対する知識を深めていきます。
- 問題を解き、それに対する解説をしていきます。
- なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。

注意事項

- 教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。
- 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
- 途中退席は欠席扱いになることがあります。
- 課題の提出を求めることがあります。

成績評価

- 授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。
- 学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。
- 合計点が 60 点以上で合格となります。

テキスト

一般臨床医学 改訂第 3 版 全国柔道整復学校協会監修 奈良信雄他編 医歯薬出版株式会社
 外科学概論 改訂第 3 版 全国柔道整復学校協会監修 炭山嘉伸編 南江堂
 柔道整復師のための救急医学 全国柔道整復学校協会監修 太田祥一編 南江堂

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：
 時間： 時 分～ 時 分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、整形外科学1 概論、感染性疾患について復習する	概論、感染性疾患を復習しておく
	到達目標	概論、感染性疾患を理解できる	
2	授業内容	整形外科学2 骨・軟部腫瘍について復習する	骨・軟部腫瘍を復習しておく
	到達目標	骨・軟部腫瘍を理解できる	
3	授業内容	整形外科学3 非感染性疾患、全身性骨・軟部疾患について復習する	非感染性疾患、全身性骨・軟部疾患を復習しておく
	到達目標	非感染性疾患、全身性骨・軟部疾患を理解できる	
4	授業内容	整形外科学4 骨端症、四肢の循環障害について復習する	骨端症、四肢の循環障害を復習しておく
	到達目標	骨端症、四肢の循環障害を理解できる	
5	授業内容	整形外科学5 神経・筋疾患、体幹の損傷・疾患について復習する	神経・筋疾患、体幹の損傷・疾患を復習しておく
	到達目標	神経・筋疾患、体幹の損傷・疾患を理解できる	
6	授業内容	整形外科学6 上肢の損傷・疾患について復習する	上肢の損傷・疾患を復習しておく
	到達目標	上肢の損傷・疾患を理解できる	
7	授業内容	整形外科学7 下肢の損傷・疾患について復習する	下肢の損傷・疾患を復習しておく
	到達目標	下肢の損傷・疾患を理解できる	
8	授業内容	リハビリテーション医学1 障害とそれに対するアプローチについて復習する	障害とそれに対するアプローチを復習しておく
	到達目標	障害とそれに対するアプローチを理解できる	
9	授業内容	リハビリテーション医学2 障害の評価について復習する	障害の評価を復習しておく
	到達目標	障害の評価を理解できる	
10	授業内容	リハビリテーション医学3 理学療法について復習する	理学療法を復習しておく
	到達目標	理学療法を理解できる	
11	授業内容	リハビリテーション医学4 作業療法、装具・義肢、言語療法について復習する	作業療法、装具・義肢、言語療法を復習しておく
	到達目標	作業療法、装具・義肢、言語療法を理解できる	
12	授業内容	リハビリテーション医学5 脳卒中について復習する	脳卒中を復習しておく
	到達目標	脳卒中を理解できる	
13	授業内容	リハビリテーション医学6 脊髄損傷について復習する	脊髄損傷を復習しておく
	到達目標	脊髄損傷を理解できる	
14	授業内容	リハビリテーション医学7 脳性麻痺、その他の疾患について学ぶ	脳性麻痺、その他の疾患を復習しておく
	到達目標	脳性麻痺、その他の疾患を理解できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を習得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	総合柔道整復学Ⅰ	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	脇坂 謙三	E-mail		実施時期	3 年 前期		

授業の目的

専門学校に入学した最大の目的は国家試験の合格、柔道整復師免許の取得です。この科目では、これまで学習してきた内容を復習・消化し、正答率を上げることを目指します。

到達目標

柔道整復学とくに上肢を中心とした内容の把握・理解を見直すことができる。
簡単な間違いを減らし、正答率を上げることができる。

授業の内容

過去の国家試験問題を解きます。
問題・解答に対する解説をしていきます。
問題に類似した内容を説明していきます。

注意事項

教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。
授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
途中退席は欠席扱いになることがあります。
課題の提出を求めることがあります。

成績評価

授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。
学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。
合計点が 60 点以上で合格となります。

テキスト

柔道整復学・理論編 改訂第 6 版 全国柔道整復学校協会監修 教科書委員会編 南江堂

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：

時間： 時 分～ 時 分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、柔整理論1 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を理解できる	
2	授業内容	柔整理論2 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を理解できる	
3	授業内容	柔整理論3 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を理解できる	
4	授業内容	柔整理論4 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を理解できる	
5	授業内容	柔整理論5 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を理解できる	
6	授業内容	柔整理論6 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を理解できる	
7	授業内容	柔整理論7 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を理解できる	
8	授業内容	柔整理論8 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を理解できる	
9	授業内容	柔整理論9 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を理解できる	
10	授業内容	柔整理論10 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を理解できる	
11	授業内容	柔整理論11 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を理解できる	
12	授業内容	柔整理論12 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を理解できる	
13	授業内容	柔整理論13 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を理解できる	
14	授業内容	柔整理論14 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を理解できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を習得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	総合柔道整復学Ⅱ	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有・ 
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	脇坂 謙三 宗友 宏行	E-mail		実施時期	3年 後期		

授業の目的							
<p>専門学校に入学した最大の目的は国家試験の合格、柔道整復師免許の取得です。この科目では、これまで学習してきた内容を復習・消化し、正答率を上げることを目指します。</p>							
到達目標							
<p>柔道整復学とくに下肢・体幹を中心とした内容の把握・理解を見直すことができる。 簡単な間違えを減らし、正答率を上げることができる。</p>							
授業の内容							
<p>過去の国家試験問題を解きます。 問題・解答に対する解説をしていきます。 問題に類似した内容を説明していきます。</p>							
注意事項							
<p>教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。 授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。 途中退席は欠席扱いになることがあります。 課題の提出を求めることがあります。</p>							
成績評価							
<p>授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。 学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。 合計点が 60 点以上で合格となります。</p>							
テキスト							
柔道整復学・理論編 改訂第 6 版 全国柔道整復学校協会監修 教科書委員会編 南江堂							
参考文献・図書							
オフィスアワーについて							
曜日：							
時間： 時 分～ 時 分							
授業時間外の学習について							
<p>授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。</p>							

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、柔整理論 1 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を理解できる	
2	授業内容	柔整理論 2 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を理解できる	
3	授業内容	柔整理論 3 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を理解できる	
4	授業内容	柔整理論 4 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を理解できる	
5	授業内容	柔整理論 5 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を理解できる	
6	授業内容	柔整理論 6 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を理解できる	
7	授業内容	柔整理論 7 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を理解できる	
8	授業内容	柔整理論 8 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を理解できる	
9	授業内容	柔整理論 9 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を理解できる	
10	授業内容	柔整理論 10 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を理解できる	
11	授業内容	柔整理論 11 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を理解できる	
12	授業内容	柔整理論 12 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を理解できる	
13	授業内容	柔整理論 13 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を理解できる	
14	授業内容	柔整理論 14 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を理解できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を習得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	総合柔道整復学Ⅲ	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	棚原 勝平	E-mail		実施時期	3 年 前期		

授業の目的

専門学校に入学した最大の目的は国家試験の合格、柔道整復師免許の取得です。この科目では、これまで学習してきた内容を復習・消化し、正答率を上げることを目指します。

到達目標

解剖学を中心とした内容の把握・理解を見直すことができる。
簡単な間違いを減らし、正答率を上げることができる。

授業の内容

過去の国家試験問題を解きます。
問題・解答に対する解説をしていきます。
問題に類似した内容を説明していきます。

注意事項

教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。
授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
途中退席は欠席扱いになることがあります。
課題の提出を求めることがあります。

成績評価

授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。
学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。
合計点が 60 点以上で合格となります。

テキスト

解剖学 改訂第 2 版 全国柔道整復学校協会監修 岸清・石塚寛編 医歯薬出版株式会社

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：

時間： 時 分～ 時 分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、解剖学 1 解剖学について復習する	解剖学を復習しておく
	到達目標	解剖学を理解できる	
2	授業内容	解剖学 2 解剖学について復習する	解剖学を復習しておく
	到達目標	解剖学を理解できる	
3	授業内容	解剖学 3 解剖学について復習する	解剖学を復習しておく
	到達目標	解剖学を理解できる	
4	授業内容	解剖学 4 解剖学について復習する	解剖学を復習しておく
	到達目標	解剖学を理解できる	
5	授業内容	解剖学 5 解剖学について復習する	解剖学を復習しておく
	到達目標	解剖学を理解できる	
6	授業内容	解剖学 6 解剖学について復習する	解剖学を復習しておく
	到達目標	解剖学を理解できる	
7	授業内容	解剖学 7 解剖学について復習する	解剖学を復習しておく
	到達目標	解剖学を理解できる	
8	授業内容	解剖学 8 解剖学について復習する	解剖学を復習しておく
	到達目標	解剖学を理解できる	
9	授業内容	解剖学 9 解剖学について復習する	解剖学を復習しておく
	到達目標	解剖学を理解できる	
10	授業内容	解剖学 10 解剖学について復習する	解剖学を復習しておく
	到達目標	解剖学を理解できる	
11	授業内容	解剖学 11 解剖学について復習する	解剖学を復習しておく
	到達目標	解剖学を理解できる	
12	授業内容	解剖学 12 解剖学について復習する	解剖学を復習しておく
	到達目標	解剖学を理解できる	
13	授業内容	解剖学 13 解剖学について復習する	解剖学を復習しておく
	到達目標	解剖学を理解できる	
14	授業内容	解剖学 14 解剖学について復習する	解剖学を復習しておく
	到達目標	解剖学を理解できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を習得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	総合柔道整復学Ⅳ	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	斎藤 雅高	E-mail			実施時期	3年 後期	

授業の目的

専門学校に入学した最大の目的は国家試験の合格、柔道整復師免許の取得です。この科目では、これまで学習してきた内容を復習・消化し、正答率を上げることを目指します。

到達目標

生理学を中心とした内容の把握・理解を見直すことができる。
簡単な間違いを減らし、正答率を上げることができる。

授業の内容

過去の国家試験問題を解きます。
問題・解答に対する解説をしていきます。
問題に類似した内容を説明していきます。

注意事項

教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。
授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
途中退席は欠席扱いになることがあります。
課題の提出を求めることがあります。

成績評価

授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。
学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。
合計点が 60 点以上で合格となります。

テキスト

生理学 改訂第 3 版 全国柔道整復学校協会監修 根来英雄、貴邑富久子編 南江堂

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：

時間： 時 分～ 時 分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、生理学1 生理学について復習する	生理学を復習しておく
	到達目標	生理学を理解できる	
2	授業内容	生理学2 生理学について復習する	生理学を復習しておく
	到達目標	生理学を理解できる	
3	授業内容	生理学3 生理学について復習する	生理学を復習しておく
	到達目標	生理学を理解できる	
4	授業内容	生理学4 生理学について復習する	生理学を復習しておく
	到達目標	生理学を理解できる	
5	授業内容	生理学5 生理学について復習する	生理学を復習しておく
	到達目標	生理学を理解できる	
6	授業内容	生理学6 生理学について復習する	生理学を復習しておく
	到達目標	生理学を理解できる	
7	授業内容	生理学7 生理学について復習する	生理学を復習しておく
	到達目標	生理学を理解できる	
8	授業内容	生理学8 生理学について復習する	生理学を復習しておく
	到達目標	生理学を理解できる	
9	授業内容	生理学9 生理学について復習する	生理学を復習しておく
	到達目標	生理学を理解できる	
10	授業内容	生理学10 生理学について復習する	生理学を復習しておく
	到達目標	生理学を理解できる	
11	授業内容	生理学11 生理学について復習する	生理学を復習しておく
	到達目標	生理学を理解できる	
12	授業内容	生理学12 生理学について復習する	生理学を復習しておく
	到達目標	生理学を理解できる	
13	授業内容	生理学13 生理学について復習する	生理学を復習しておく
	到達目標	生理学を理解できる	
14	授業内容	生理学14 生理学について復習する	生理学を復習しておく
	到達目標	生理学を理解できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を習得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	総合柔道整復学Ⅴ	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	斎藤 雅高	E-mail			実施時期	3 年	

授業の目的

専門学校に入学した最大の目的は国家試験の合格、柔道整復師免許の取得です。この科目では、これまで学習してきた内容を復習・消化し、正答率を上げることを目指します。

到達目標

柔道整復理論とくに骨折総論、脱臼・軟損総論を中心とした内容の把握・理解を見直すことができる。
簡単な間違いを減らし、正答率を上げることができる。

授業の内容

過去の国家試験問題を解きます。
問題・解答に対する解説をしていきます。
問題に類似した内容を説明していきます。

注意事項

教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。
授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
途中退中は欠席扱いになることがあります。
課題の提出を求めることがあります。

成績評価

授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。
学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。
合計点が 60 点以上で合格となります。

テキスト

柔道整復学・理論編 改訂第 6 版 全国柔道整復学校協会監修 教科書委員会編 南江堂

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：

時間： 時 分～ 時 分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、柔整理論1 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を理解できる	
2	授業内容	柔整理論2 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を理解できる	
3	授業内容	柔整理論3 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を理解できる	
4	授業内容	柔整理論4 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を理解できる	
5	授業内容	柔整理論5 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を理解できる	
6	授業内容	柔整理論6 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を理解できる	
7	授業内容	柔整理論7 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を理解できる	
8	授業内容	柔整理論8 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を理解できる	
9	授業内容	柔整理論9 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を理解できる	
10	授業内容	柔整理論10 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を理解できる	
11	授業内容	柔整理論11 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を理解できる	
12	授業内容	柔整理論12 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を理解できる	
13	授業内容	柔整理論13 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を理解できる	
14	授業内容	柔整理論14 柔整理論について復習する	柔整理論を復習しておく
	到達目標	柔整理論を理解できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を習得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	総合柔道整復学Ⅵ	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	石橋 重良	E-mail			実施時期	3 年	

授業の目的

専門学校に入学した最大の目的は国家試験の合格、柔道整復師免許の取得です。この科目では、これまで学習してきた内容を復習・消化し、正答率を上げることを目指します。

到達目標

衛生学・公衆衛生学、病理学概論、外科学概論を中心とした内容の把握・理解を見直すことができる。
簡単な間違いを減らし、正答率を上げることができる。

授業の内容

過去の国家試験問題を解きます。
問題・解答に対する解説をしていきます。
問題に類似した内容を説明していきます。

注意事項

教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。
授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
途中退席は欠席扱いになることがあります。
課題の提出を求めることがあります。

成績評価

授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。
学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。
合計点が 60 点以上で合格となります。

テキスト

衛生学・公衆衛生学 改訂第 5 版 全国柔道整復学校協会監修 鈴木庄亮他著 南江堂
病理学概論 改訂第 3 版 全国柔道整復学校協会監修 関根一郎著 医歯薬出版株式会社
外科学概論 改訂第 3 版 全国柔道整復学校協会監修 炭山嘉伸編 南江堂
柔道整復師のための救急医学 全国柔道整復学校協会監修 太田祥一編 南江堂

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：
時間： 時 分～ 時 分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、衛生学・公衆衛生学 1 衛生学・公衆衛生学について復習する	衛生学・公衆衛生学を復習しておく
	到達目標	衛生学・公衆衛生学を理解できる	
2	授業内容	衛生学・公衆衛生学 2 衛生学・公衆衛生学について復習する	衛生学・公衆衛生学を復習しておく
	到達目標	衛生学・公衆衛生学を理解できる	
3	授業内容	衛生学・公衆衛生学 3 衛生学・公衆衛生学について復習する	衛生学・公衆衛生学を復習しておく
	到達目標	衛生学・公衆衛生学を理解できる	
4	授業内容	衛生学・公衆衛生学 4 衛生学・公衆衛生学について復習する	衛生学・公衆衛生学を復習しておく
	到達目標	衛生学・公衆衛生学を理解できる	
5	授業内容	衛生学・公衆衛生学 5 衛生学・公衆衛生学について復習する	衛生学・公衆衛生学を復習しておく
	到達目標	衛生学・公衆衛生学を理解できる	
6	授業内容	病理学概論 1 病理学概論について復習する	病理学概論を復習しておく
	到達目標	病理学概論を理解できる	
7	授業内容	病理学概論 2 病理学概論について復習する	病理学概論を復習しておく
	到達目標	病理学概論を理解できる	
8	授業内容	病理学概論 3 病理学概論について復習する	病理学概論を復習しておく
	到達目標	病理学概論を理解できる	
9	授業内容	病理学概論 4 病理学概論について復習する	病理学概論を復習しておく
	到達目標	病理学概論を理解できる	
10	授業内容	病理学概論 5 病理学概論について復習する	病理学概論を復習しておく
	到達目標	病理学概論を理解できる	
11	授業内容	外科学概論 1 外科学概論について復習する	外科学概論を復習しておく
	到達目標	外科学概論を理解できる	
12	授業内容	外科学概論 2 外科学概論について復習する	外科学概論を復習しておく
	到達目標	外科学概論を理解できる	
13	授業内容	外科学概論 3 外科学概論について復習する	外科学概論を復習しておく
	到達目標	外科学概論を理解できる	
14	授業内容	外科学概論 4 外科学概論について復習する	外科学概論を復習しておく
	到達目標	外科学概論を理解できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を習得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	総合柔道整復学Ⅶ	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	斎藤 雅高	E-mail			実施時期	3 年	

授業の目的

専門学校に入学した最大の目的は国家試験の合格、柔道整復師免許の取得です。この科目では、これまで学習してきた内容を復習・消化し、正答率を上げることを目指します。

到達目標

一般臨床医学、関係法規を中心とした内容の把握・理解を見直すことができる。
簡単な間違いを減らし、正答率を上げることができる。

授業の内容

過去の国家試験問題を解きます。
問題・解答に対する解説をしていきます。
問題に類似した内容を説明していきます。

注意事項

教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。
授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
途中退出は欠席扱いになることがあります。
課題の提出を求めることがあります。

成績評価

授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。
学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。
合計点が 60 点以上で合格となります。

テキスト

一般臨床医学 改訂第 3 版 全国柔道整復学校協会監修 奈良信雄他著編 医歯薬出版株式会社
関係法規 改訂第 2 版 全国柔道整復学校協会監修 前田和彦編著 医歯薬出版株式会社

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：

時間： 時 分～ 時 分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、一般臨床医学1 一般臨床医学について復習する	一般臨床医学を復習しておく
	到達目標	一般臨床医学を理解できる	
2	授業内容	一般臨床医学2 一般臨床医学について復習する	一般臨床医学を復習しておく
	到達目標	一般臨床医学を理解できる	
3	授業内容	一般臨床医学3 一般臨床医学について復習する	一般臨床医学を復習しておく
	到達目標	一般臨床医学を理解できる	
4	授業内容	一般臨床医学4 一般臨床医学について復習する	一般臨床医学を復習しておく
	到達目標	一般臨床医学を理解ができる	
5	授業内容	一般臨床医学5 一般臨床医学について復習する	一般臨床医学を復習しておく
	到達目標	一般臨床医学を理解できる	
6	授業内容	一般臨床医学6 一般臨床医学について復習する	一般臨床医学を復習しておく
	到達目標	一般臨床医学を理解できる	
7	授業内容	一般臨床医学7 一般臨床医学について復習する	一般臨床医学を復習しておく
	到達目標	一般臨床医学を理解できる	
8	授業内容	一般臨床医学8 一般臨床医学について復習する	一般臨床医学を復習しておく
	到達目標	一般臨床医学を理解できる	
9	授業内容	一般臨床医学9 一般臨床医学について復習する	一般臨床医学を復習しておく
	到達目標	一般臨床医学を理解できる	
10	授業内容	一般臨床医学10 一般臨床医学について復習する	一般臨床医学を復習しておく
	到達目標	一般臨床医学を理解できる	
11	授業内容	関係法規1 関係法規について復習する	関係法規を復習しておく
	到達目標	関係法規を理解できる	
12	授業内容	関係法規2 関係法規について復習する	関係法規を復習しておく
	到達目標	関係法規を理解できる	
13	授業内容	関係法規3 関係法規について復習する	関係法規を復習しておく
	到達目標	関係法規を理解できる	
14	授業内容	関係法規4 関係法規について復習する	関係法規を復習しておく
	到達目標	関係法規を理解できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を習得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	総合柔道整復学Ⅷ	単位数	1 単位	授業形態	講義	実務経験の有無	有 ・ 無
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	奥田 香苗	E-mail		実施時期	3 年		

授業の目的

専門学校に入学した最大の目的は国家試験の合格、柔道整復師免許の取得です。この科目では、これまで学習してきた内容を復習・消化し、正答率を上げることを目指します。

到達目標

運動学、整形外科学、リハビリテーション医学を中心とした内容の把握・理解を見直すことができる。
簡単な間違いを減らし、正答率を上げることができる。

授業の内容

過去の国家試験問題を解きます。
問題・解答に対する解説をしていきます。
問題に類似した内容を説明していきます。

注意事項

教科書・筆記用具・配布プリント・ノート等を持参して下さい。
授業中の私語、携帯電話・スマートフォンの使用、飲食は禁止します。
途中退席は欠席扱いになることがあります。
課題の提出を求めることがあります。

成績評価

授業時間数の 2/3 以上の出席が評価対象となります。
学期途中に行う確認試験、期末試験（筆記試験）を行い、100 点満点で評価します。
合計点が 60 点以上で合格となります。

テキスト

運動学 改訂第 3 版 全国柔道整復学校協会監修 齋藤宏・鴨下博著 医歯薬出版株式会社
整形外科学 改訂第 3 版 全国柔道整復学校協会監修 松下隆・福林徹・田淵健一編 南江堂
リハビリテーション医学 改訂第 3 版 全国柔道整復学校協会監修 三上真弘編 南江堂

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：
時間： 時 分～ 時 分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50 分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション、運動学1 運動学について復習する	運動学を復習しておく
	到達目標	運動学を理解できる	
2	授業内容	運動学2 運動学について復習する	運動学を復習しておく
	到達目標	運動学を理解できる	
3	授業内容	運動学3 運動学について復習する	運動学を復習しておく
	到達目標	運動学を理解できる	
4	授業内容	運動学4 運動学について復習する	運動学を復習しておく
	到達目標	運動学を理解できる	
5	授業内容	整形外科学1 整形外科学について復習する	整形外科学を復習しておく
	到達目標	整形外科学を理解できる	
6	授業内容	整形外科学2 整形外科学について復習する	整形外科学を復習しておく
	到達目標	整形外科学を理解できる	
7	授業内容	整形外科学3 整形外科学について復習する	整形外科学を復習しておく
	到達目標	整形外科学を理解できる	
8	授業内容	整形外科学4 整形外科学について復習する	整形外科学を復習しておく
	到達目標	整形外科学を理解できる	
9	授業内容	整形外科学5 整形外科学について復習する	整形外科学を復習しておく
	到達目標	整形外科学を理解できる	
10	授業内容	リハビリテーション医学1 リハビリテーション医学について復習する	リハビリテーション医学を復習しておく
	到達目標	リハビリテーション医学を理解できる	
11	授業内容	リハビリテーション医学2 リハビリテーション医学について復習する	リハビリテーション医学を復習しておく
	到達目標	リハビリテーション医学を理解できる	
12	授業内容	リハビリテーション医学3 リハビリテーション医学について復習する	リハビリテーション医学を復習しておく
	到達目標	リハビリテーション医学を理解できる	
13	授業内容	リハビリテーション医学4 リハビリテーション医学について復習する	リハビリテーション医学を復習しておく
	到達目標	リハビリテーション医学を理解できる	
14	授業内容	リハビリテーション医学5 リハビリテーション医学について復習する	リハビリテーション医学を復習しておく
	到達目標	リハビリテーション医学を理解できる	
15	授業内容	まとめ(評価を含む) 本講義の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本講義の内容について知識を習得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	機能回復訓練実技	単位数	1 単位	授業形態	実習	実務経験の有無	⑦・無
		時間数	30 時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所柔整科勤務					
担当者	棚原 勝平	E-mail		実施時期	3年 後期		

授業の目的

卒業後、トレーナーとしての実践を考えてテーピング、キネシオテープが実施できることを目的とする。
卒業後、リハビリテーション科で勤務される場合を想定した器具の使い方の習得と、機能回復訓練法が実施できることを目的とする。

到達目標

実践で使えるテーピング、キネシオテープが施術できるようになる。
物療機器の取り扱いと、機能回復訓練法が実施できるようになる。

授業の内容

本科目ではテーピングの基礎、各関節の特性を教授し、外傷処置や外傷予防のテーピング、キネシオを重ねて練習する。また、実際に物療機器を用いて、その扱い方を教授し、機能回復訓練に必要な技術を学び練習する。
なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。

注意事項

- ・ 実技の授業中は無地で白色の肌着の上にケーシー（学生証）を着用し、動きやすい長ズボン、スニーカーで受講してください。
- ・ 授業中のスマートフォン・タブレットの使用、飲食は禁止します。
- ・ 固定材料授業資料の管理に留意し、紛失した場合は各自補っておくこと。
- ・ 欠席中に作成した固定材料は、後日、各自作成しておくこと。
- ・ 承諾を得ずに途中退室した場合、欠席扱いになることがあります。

成績評価

受験資格 : 5分の4以上の出席が必要です。
評価 : 期末テスト（80%）、中間テスト（20%）に平常点が加味されます。

テキスト

配布資料

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日：木曜日
時間：16時20分～17時20分

授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション テーピングの基礎・扱い方	復習：テーピングの基礎・扱い方 予習：肩部のテーピング法
	到達目標	テーピングの基礎・扱い方ができるようになる。	
2	授業内容	肩部のテーピング法	復習：肩部のテーピング法 予習：肩部のキネシオ法
	到達目標	肩部のテーピング法ができるようになる。	
3	授業内容	肩部のキネシオ法	復習：肩部のキネシオ法 予習：肘部のテーピング法
	到達目標	肩部のキネシオ法ができるようになる。	
4	授業内容	肘部のテーピング法	復習：肘部のテーピング法 予習：
	到達目標	肘部のテーピング法ができるようになる。	
5	授業内容	肘部のキネシオ法	復習：肘部のキネシオ法 予習：手関節、手指部のテーピング法
	到達目標	肘部のキネシオ法ができるようになる。	
6	授業内容	手関節、手指部のテーピング法	復習：手関節、手指部のテーピング法 予習：手関節、手指部のキネシオ法
	到達目標	手関節、手指部のテーピング法ができるようになる。	
7	授業内容	手関節、手指部のキネシオ法	復習：手関節、手指部のキネシオ法 予習：第7回までの内容
	到達目標	手関節、手指部のキネシオ法ができるようになる。	
8	授業内容	まとめ	復習：第7回までの内容
	到達目標	下肢の機能障害部位に対する後療法ができるようになる。	
9	授業内容	上肢の物療機器と徒手筋力増強訓練法①	復習：上肢の物療機器と徒手筋力増強訓練法
	到達目標	上肢の物療機器と徒手筋力増強訓練法ができるようになる。	
10	授業内容	上肢の物療機器と徒手筋力増強訓練法②	復習：上肢の物療機器と徒手筋力増強訓練法 予習：上肢の機能障害部位に対するセルフケア
	到達目標	上肢の物療機器と徒手筋力増強訓練法ができるようになる。	
11	授業内容	下肢の物療機器と徒手筋力増強訓練法①	復習：下肢の物療機器と徒手筋力増強訓練法
	到達目標	下肢の物療機器と徒手筋力増強訓練法ができるようになる。	
12	授業内容	下肢の物療機器と徒手筋力増強訓練法②	復習：下肢の物療機器と徒手筋力増強訓練法 予習：体幹の機能障害部位に対するセルフケア
	到達目標	下肢の物療機器と徒手筋力増強訓練法ができるようになる。	
13	授業内容	体幹の物療機器と徒手筋力増強訓練法	復習：体幹の物療機器と徒手筋力増強訓練法 予習：本実技内容
	到達目標	体幹の物療機器と徒手筋力増強訓練法ができるようになる。	
14	授業内容	まとめ	復習：本実技内容 予習：本実技内容
	到達目標		
15	授業内容	まとめ	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	臨床柔道整復実技 (開業実践)	単位数	1 単位	授業形態	実習	実務経験の有無	㊟・無
		時間数	30 時間				
実務経験内容		接骨院開業					
担当者	山村 徳三	E-mail		実施時期	3年 後期		

授業の目的							
接骨院の施術内容の紹介と、必要な知識と技術を学習する。							
到達目標							
接骨院の補助ができるようになる。							
授業の内容							
各種傷病の特性を学び、コンディショニングとケアを実践していく。 なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。							
注意事項							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 実技の授業中は無地で白色の肌着の上にケーシー（学生証）を着用し、動きやすい長ズボン、スニーカーで受講してください。 ・ 授業中のスマートフォン・タブレットの使用、飲食は禁止します。 ・ 固定材料授業資料の管理に留意し、紛失した場合は各自補っておくこと。 ・ 欠席中に作成した固定材料は、後日、各自作成しておくこと。 ・ 承諾を得ずに途中退室した場合、欠席扱いになることがあります。 							
成績評価							
受験資格 : 5分の4以上の出席が必要です。							
評価 : 期末テストに平常点が加味されます。							
テキスト							
配布資料							
参考文献・図書							
オフィスアワーについて							
曜日 : 木曜日							
時間 : 16時20分～17時20分							
授業時間外の学習について							
授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。							

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション 柔道整復術の適応と医療連携	復習：柔道整復術の適応 予習：頸部捻挫の処置法
	到達目標	柔道整復術の適応と医療連携が理解できる。	
2	授業内容	頸部捻挫の処置法	復習：頸部捻挫の処置法 予習：肩部捻挫の処置法
	到達目標	頸部捻挫の処置法ができるようになる。	
3	授業内容	肩部捻挫の処置法	復習：肩部捻挫の処置法 予習：肘・手部捻挫の処置法
	到達目標	肩部捻挫の処置法ができるようになる。	
4	授業内容	肘・手部捻挫の処置法	復習：肘・手部捻挫の処置法 予習：背部挫傷の処置法
	到達目標	肘・手部捻挫の処置法ができるようになる。	
5	授業内容	背部挫傷の処置法	復習：背部挫傷の処置法 予習：股関節捻挫の処置法
	到達目標	背部挫傷の処置法ができるようになる。	
6	授業内容	股関節捻挫の処置法	復習：股関節捻挫の処置法 予習：大腿部挫傷の処置法
	到達目標	股関節捻挫の処置法ができるようになる。	
7	授業内容	大腿部挫傷の処置法	復習：大腿部挫傷の処置法 予習：下腿部挫傷の処置法
	到達目標	大腿部挫傷の処置法ができるようになる。	
8	授業内容	下腿部挫傷の処置法	復習：下腿部挫傷の処置法 予習：足関節捻挫の処置法
	到達目標	下腿部挫傷の処置法ができるようになる。	
9	授業内容	足関節捻挫の処置法	復習：足関節捻挫の処置法 予習：第9回までの内容
	到達目標	足関節捻挫の処置法ができるようになる。	
10	授業内容	まとめ	復習：第9回までの内容 予習：療養費請求法
	到達目標	第9回までの内容ができるようになる。	
11	授業内容	療養費請求法	復習：療養費請求法 予習：超音波
	到達目標	療養費請求ができるようになる。	
12	授業内容	超音波実習	復習：超音波 予習：診療情報提供書作成法
	到達目標	超音波が使えるようになる。	
13	授業内容	診療情報提供書作成法	復習：診療情報提供書作成法 予習：本実技内容
	到達目標	診療情報提供書が作成できるようになる。	
14	授業内容	まとめ	復習：本実技内容 予習：本実技内容
	到達目標	本実技内容	
15	授業内容	まとめ	
	到達目標		

【柔整学科授業シラバス】

科目名	臨床柔道整復実技 (機能訓練)	単位数	1 単位	授業形態	実習	実務経験の有無	④・無
		時間数	30 時間				
実務経験内容		デイリハビリセンター開業					
担当者	田中 精一	E-mail		実施時期	3年 後期		

授業の目的

高齢化社会において、介護保険制度は高齢者を支える上で大きな柱となっている。特に介護予防における機能訓練指導員の責務は大きい。柔道整復師はその一員として認められている以上、今後益々 その担い手として介護分野への参画が期待される。それに伴い、養成校での介護保険制度に対する知識と機能訓練指導員としての技術を習得し、介護業界へ貢献すると共に日本社会における柔道整復師の地位向上へと繋げる事を目的とする。

到達目標

機能訓練指導員として必要な知識を正確に説明でき、業務を行うにあたり実施する運動などを確実に指導することができるようになる。

授業の内容

柔道整復師と機能訓練指導 (介護保険制度の理解・機能訓練指導員としての知識と技術の習得)
 なお、この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で授業を行います。

注意事項

※医療人として相応しい人間性(知識・技能)の習得を目的に、全出席を基本原則とします。予測できない病気などで欠席する場合がありますので、日頃から全出席を心がけてください。また、無断での途中退出や早退は「欠席」となります。注意してください。
 ※教室内は一つの社会です。他の学生が不快となるような言動は慎み、全員による居心地の良い教室空間の構築を期待します。

成績評価

期末試験にて評価します。

テキスト

柔道整復師と機能訓練指導員(機能訓練指導員養成テキスト) 全国柔道整復学校協会監修 南江堂

参考文献・図書

オフィスアワーについて

曜日:

時間: 時 分～ 時 分


授業時間外の学習について

授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習(50分程度)を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画		授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション 第1章 柔道整復師と介護保険 実技：コグニサイズⅠ
	到達目標	コグニサイズを正確に実施できる。
2	授業内容	発達と老化の理解Ⅰ 実技：嘔吐物の対処方法
	到達目標	嘔吐物の対処方法を正確に実施できる。
3	授業内容	発達と老化の理解Ⅱ 実技：心肺蘇生
	到達目標	心肺蘇生法を正確に実施することができる。
4	授業内容	介護保険制度 実技：二人組 認定調査
	到達目標	介護保険制度について説明できる。
5	授業内容	高齢者の疾患 実技：SLR 様四頭筋・殿筋・内・外転筋（コンセントリック・エキセントリック）
	到達目標	筋肉の活動様式について説明できる。
6	授業内容	介護の過程Ⅰ 実技：転倒予防と歩行
	到達目標	転倒予防について説明できる。
7	授業内容	介護の過程Ⅱ 実技：居宅介護計画(原案)作成(1)(2)
	到達目標	居宅介護計画を作成できる。
8	授業内容	介護の過程Ⅲ 実技：居宅介護計画(原案)作成(3) 意見交換
	到達目標	居宅介護計画について説明できる。
9	授業内容	介護の過程Ⅳ 実技：担当者会議とグループ検討会 カラー(3)の説明と担当者会議演出にて変更プラン作成と発表
	到達目標	グループ検討会の内容について説明できる。
10	授業内容	機能訓練指導 実技：個別機能訓練計画作成
	到達目標	個別機能訓練計画を作成できる。
11	授業内容	高齢者介護とICF（国際生活機能分類） 実技：機能訓練身体能力測定と評価 FCR・Tine&go・片脚立ち
	到達目標	機能訓練身体能力測定が実施できる。
12	授業内容	ロコモシンドローム 実技：ロコモテストと評価 ロコモ25記入とロコモ1.2実践
	到達目標	ロコモシンドロームについて説明できる。
13	授業内容	認知症の理解 実技：認知症への対応
	到達目標	認知症への対応が正確に実施できる。
14	授業内容	いちごの会 高齢者の関節障害 実技：介護保険おさらい
	到達目標	介護保険について説明できる。
15	授業内容	まとめ（評価含む）
	到達目標	

【柔整学科授業シラバス】


科目名	総合柔道整復実技Ⅰ	単位数	1 単位	授業形態	実習	実務経験の有無	有・ 
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	脇坂 謙三 宗友 宏行	E-mail		実施時期	3年 前期		

授業の目的	認定実技審査を踏まえて、面接、診断、整復、固定について実習を行います。
到達目標	認定実技試験に合格できる実技能力を身につける。
授業の内容	骨折・脱臼では、診断法・整復法・固定法を実習します。 軟部組織損傷では、診断法の主に徒手検査法を実習します。 各項目は1年次2年次に履修した復習であり、ここでは治療における一連の流れについて認定実技審査を踏まえて学習します。
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実技の授業中は無地で白色の肌着の上にケーシー（学生証）を着用し、動きやすい長ズボン、スニーカーで受講してください。 ・ 授業中のスマートフォン・タブレットの使用、飲食は禁止します。 ・ 固定材料授業資料の管理に留意し、紛失した場合は各自補っておくこと。 ・ 欠席中に作成した固定材料は、後日、各自作成しておくこと。 ・ 承諾を得ずに途中退室した場合、欠席扱いになることがあります。
成績評価	学期末で実技試験を実施します。 受験資格としては、各学期の授業出席時間が、授業時間数の4/5以上が必要となります。
テキスト	柔道整復学教科書（理論編・実技編）：南江堂
参考文献・図書	解剖学教科書：南江堂 整形外科教科書：南江堂
オフィスアワーについて	曜日：木曜日 時間：16時20分～17時20分
授業時間外の学習について	授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション 鎖骨骨折整復・固定法	復習：鎖骨骨折整復・固定法 予習：肩鎖関節脱臼整復・固定法
	到達目標	鎖骨骨折整復・固定法ができるようになる。	
2	授業内容	肩鎖関節脱臼整復・固定法	復習：肩鎖関節脱臼整復・固定法 予習：肩関節脱臼整復・固定法
	到達目標	肩鎖関節脱臼整復・固定法ができるようになる。	
3	授業内容	肩関節脱臼整復・固定法	復習：肩関節脱臼整復・固定法 予習：上腕骨外科頸骨折整復法・骨幹部骨折固定法
	到達目標	肩関節脱臼整復・固定法ができるようになる。	
4	授業内容	上腕骨外科頸骨折整復法・骨幹部骨折固定法	復習：上腕骨外科頸骨折整復法・骨幹部骨折固定法 予習：コーレス骨折整復・固定法
	到達目標	上腕骨外科頸骨折整復法・骨幹部骨折固定法ができるようになる。	
5	授業内容	コーレス骨折整復・固定法	復習：コーレス骨折整復・固定法 予習：肘関節後方脱臼、肘内障整復法
	到達目標	コーレス骨折整復・固定法ができるようになる。	
6	授業内容	肘関節後方脱臼、肘内障整復法	復習：肘関節後方脱臼、肘内障整復法 予習：第6回までの内容
	到達目標	肘関節後方脱臼、肘内障整復法ができるようになる。	
7	授業内容	前半まとめ	復習：第6回までの内容 予習：肘関節後方脱臼固定法
	到達目標	第6回までの内容ができるようになる。	
8	授業内容	肘関節後方脱臼固定法	復習：肘関節後方脱臼固定法 予習：腱板損傷・上腕二頭筋長頭腱損傷診察
	到達目標	肘関節後方脱臼固定法ができるようになる。	
9	授業内容	腱板損傷・上腕二頭筋長頭腱損傷診察	復習：腱板損傷・上腕二頭筋長頭腱損傷診察 予習：ハムストリングス損傷・大腿四頭筋打撲診察
	到達目標	腱板損傷・上腕二頭筋長頭腱損傷診察ができるようになる。	
10	授業内容	ハムストリングス損傷・大腿四頭筋打撲診察	復習：ハムストリングス損傷・大腿四頭筋打撲診察 予習：膝関節部靭帯損傷診察
	到達目標	ハムストリングス損傷・大腿四頭筋打撲診察ができるようになる。	
11	授業内容	膝関節部靭帯損傷診察	復習：膝関節部靭帯損傷診察 予習：半月板損傷・MCL損傷の固定法
	到達目標	膝関節部靭帯損傷診察ができるようになる。	
12	授業内容	半月板損傷・MCL損傷の固定法	復習：半月板損傷・MCL損傷の固定法 予習：下腿肉ばなれ診察
	到達目標	半月板損傷・MCL損傷の固定法ができるようになる。	
13	授業内容	下腿肉ばなれ診察	復習：下腿肉ばなれ診察 予習：本実技内容
	到達目標	下腿肉ばなれ診察ができるようになる。	
14	授業内容	後半まとめ	復習：本実技内容 予習：本実技内容
	到達目標	本実技の内容ができるようになる。	
15	授業内容	まとめ（評価含む） 本実技の内容について確認・復習をする	
	到達目標	本実技の内容についての技術を習得している	

【柔整学科授業シラバス】

科目名	総合柔道整復実技Ⅱ	単位数	1 単位	授業形態	実習	実務経験の有無	有・ 
		時間数	30 時間				
実務経験内容							
担当者	脇坂 謙三 宗友 宏行	E-mail			実施時期	3年 後期	

授業の目的	<p>認定実技審査を踏まえて、面接、診断、整復、固定について実習を行います。 画像診断についての知識を深めていきます。</p>
到達目標	<p>認定実技試験に合格できる実技能力を身につける。 国家試験出題基準になっている外傷について画像診断が抱きるようになる。</p>
授業の内容	<p>骨折・脱臼では、診断法・整復法・固定法を実習します。 軟部組織損傷では、診断法の主に徒手検査法を実習します。 各項目は1年次2年次に履修した復習であり、ここでは治療における一連の流れについて認定実技審査を踏まえて学習します。 各種画像をみて、外傷の判断と検査、処置を考える。</p>
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実技の授業中は無地で白色の肌着の上にケーシー（学生証）を着用し、動きやすい長ズボン、スニーカーで受講してください。 ・ 授業中のスマートフォン・タブレットの使用、飲食は禁止します。 ・ 固定材料授業資料の管理に留意し、紛失した場合は各自補っておくこと。 ・ 欠席中に作成した固定材料は、後日、各自作成しておくこと。 ・ 承諾を得ずに途中退室した場合、欠席扱いになることがあります。
成績評価	<p>学期末で実技試験を実施します。 受験資格としては、各学期の授業出席時間が、授業時間数の4/5以上が必要となります。</p>
テキスト	<p>柔道整復学教科書（理論編・実技編）：南江堂</p>
参考文献・図書	<p>解剖学教科書：南江堂 整形外科教科書：南江堂</p>
オフィスアワーについて	<p>曜日： 木曜日 時間： 16時20分～ 17時20分</p>
授業時間外の学習について	<p>授業計画を確認し、配布資料・講義中の指示をもとに予習・復習（50分程度）を行ってください。復習を行って理解できない場合はそのままにせず、必ず質問に来てください。</p>

【柔整学科授業シラバス】

授業計画			授業時間外学習（予習・復習）
1	授業内容	オリエンテーション 第5指中手骨頸部骨折の固定法	復習：第5指中手骨頸部骨折の固定法
	到達目標	第5指中手骨頸部骨折の固定法ができるようになる。	予習：第2指PIP関節背側脱臼の固定法
2	授業内容	第2指PIP関節背側脱臼の固定法	復習：第2指PIP関節背側脱臼の固定法
	到達目標	第2指PIP関節背側脱臼の固定法ができるようになる。	予習：下腿骨骨折の固定法
3	授業内容	下腿骨骨折の固定法	復習：下腿骨骨折の固定法
	到達目標	下腿骨骨折の固定法ができるようになる。	予習：肋骨骨折の固定法
4	授業内容	肋骨骨折の固定法	復習：肋骨骨折の固定法
	到達目標	肋骨骨折の固定法ができるようになる。	予習：アキレス腱断裂の固定法
5	授業内容	アキレス腱断裂の固定法	復習：アキレス腱断裂の固定法
	到達目標	アキレス腱断裂の固定法ができるようになる。	予習：足関節外側側副靭帯損傷の固定法
6	授業内容	足関節外側側副靭帯損傷の固定法①	復習：足関節外側側副靭帯損傷の固定法
	到達目標	足関節外側側副靭帯損傷の固定法ができるようになる。	予習：
7	授業内容	足関節外側側副靭帯損傷の固定法②	復習：足関節外側側副靭帯損傷の固定法
	到達目標	足関節外側側副靭帯損傷の固定法	予習：第7回までの内容
8	授業内容	まとめ	復習：第7回までの内容
	到達目標	第7回までの内容ができるようになる。	予習：肩部外傷
9	授業内容	画像診断学 肩部	復習：肩部外傷
	到達目標	肩部外傷が理解できる。	予習：手部外傷
10	授業内容	画像診断学 手部	復習：手部外傷
	到達目標	手部外傷が理解できる。	予習：脊柱部外傷
11	授業内容	画像診断学 脊柱部	復習：脊柱部外傷
	到達目標	脊柱部外傷が理解できる。	予習：股関節部外傷
12	授業内容	画像診断学 股関節部	復習：股関節部外傷
	到達目標	股関節部外傷が理解できる。	予習：膝部外傷
13	授業内容	画像診断学 膝部	復習：膝部外傷
	到達目標	膝部外傷が理解できる。	予習：足部外傷
14	授業内容	画像診断学 足部	復習：足部外傷
	到達目標	足部外傷が理解できる。	予習：本実技内容
15	授業内容	まとめ	
	到達目標		

【柔整学科授業シラバス】

科目名	臨床実習Ⅳ	単位数	1 単位	授業形態	実習	実務経験の有無	④・無
		時間数	45 時間				
実務経験内容		明治東洋医学院専門学校附属治療所勤務					
担当者	斎藤 雅高	E-mail		実施時期	3年 時間外		

授業の目的

今まで学習してきた内容で対応できる患者様に対して医療面接を行い、自身の判断結果から施術計画を立案できるようになることを目的とする。

到達目標

1人の患者様に対して、医療面接から指導管理まで行えるようになる。

授業の内容

スポーツ現場での実習で、指導者立会いの下、各種障害や外傷に対して医療面接から各種検査、処置、指導管理までを行う。

この科目は、教員の実務経験に基づいた内容で行います。

注意事項

実習中は服装・身だしなみに留意し、各施設の基準に従い、個人情報守秘義務を遵守すること。

時間厳守（遅刻・早退は再履修となることがある。）

実際外傷に対応できるだけの理論・実技を再復習しておくこと。

成績評価

全日程への出席

レポート

実習時間外の学習について

実習内容について、必ずその日のうちに振り返り、レポートの作成など、記憶にとどめるように努力すること。

その際に、翌日の行動目標についても確認して実りある実習とすること。